

WG 4：小規模医療機関に対する血液製剤アンケートの実施

岐阜県医師会 西野 好則

【緒 言】

これまで、医師会では、輸血実績のある 100 床未満の病院、有床診療所、無床診療所を対象に血液製剤の使用状況等に関するアンケート調査を実施してきた。

また、平成 28 年度及び令和元年度には在宅輸血をテーマにしたアンケート調査も実施し、さらに令和 4 年度には、在宅輸血の実績や課題等を深掘りして調査するため、在宅輸血の実績がある医療機関及び連携している訪問看護ステーションを対象に、より詳細な内容の調査を実施し、県内の小規模医療機関における在宅輸血の実態及び意向を確認した。これにより、在宅輸血に関わる医療機関や訪問看護ステーションが抱える課題やニーズについて把握することができた。

今年度は、例年、血液製剤供給量上位 30 医療機関に対し実施している血液製剤アンケート（県アンケート）を過去に調査してこなかった上位 30 医療機関以外の病院（小規模医療機関）に対して実施することとした（別添資料）。

【対 象】

令和 5 年度に血液製剤供給実績のある上位 30 医療機関以外の病院（45 施設）

【結 果】

- ・ 回答率 71% (32/45)。このうち、94% (30/32) が小規模医療機関であった。
- ・ 輸血療法委員会を設置している医療機関は 18 施設 (56.3%) であり、構成員の総数は平均 9.6 人であった。
- ・ 学会資格保有者は認定臨床輸血看護師 1 名に留まり、輸血責任医師がいない医療機関が、62.5% (20/32) であった。
- ・ 外来輸血は 32 施設中、20 例で実施していた。
- ・ 副作用報告体制は整備されているのが 25 例、7 例が整備されていなかった。
- ・ 輸血前の検体保存を行っている施設は 21 例で 10 例は行っていなかった。
- ・ 輸血管理料については、管理料Ⅱを算定している医療機関が 28.1% (9/32) で、このうち、66.7% (6/9) が適正使用加算を算定していた。管理料算定をしていない医療機関において管理料算定が困難な理由（複数回答）としては、「専任（専従）の輸血責任医師が配置されていない」が 25.5% (13/51)、「専任（専従）の常勤臨床検査技師が配置されていない」が 25.5% (13/51) が上位の理由であった。
- ・ 赤血球製剤、血液製剤の在庫を所持している医療機関はなかった。
- ・ 血液製剤の使用状況としては、赤血球製剤が 5,988 単位、血小板製剤 1,045 単位、FFP-LR120 が 0 袋、FFP-LR240 が 105 袋、FFP-LR480 が 125 袋であり、赤血球製剤、血

小板製剤の使用が多かった。一方、廃棄量としては、赤血球製剤が 34 単位、血小板製剤 0 単位、FFP-LR120 が 0 袋、FFP-LR240 が 1 袋、FFP-LR480 が 0 袋であり、赤血球製剤の全体の廃棄率は 0.598%であった。

【まとめ】

本調査を通じて、例年、県アンケートで確認している血液製剤の使用の実態について、小規模医療機関の状況を初めて確認することができた。

今回アンケートへの協力が得られた医療機関において、輸血療法委員会を設置している医療機関が 56.3%であることや、輸血責任医師が設置されていない医療機関が 62.5%など病床規模に応じた人員体制に課題があった。今後、小規模医療機関に対する血液製剤の適正使用に向けた取組を検討していきたい。

血液製剤の使用状況等に関する調査結果について

調査対象：令和5年度輸血用血液製剤の使用量上位30位以外の
医療機関で血液製剤使用実績のある病院（45施設）
調査時期：令和6年9月実施（回答数：32施設 回答率：71%）
調査対象期間：令和5年4月～令和6年3月

1 輸血療法委員会について

(1) 輸血療法委員会設置状況（単位：施設）

設置している	18
設置していない	14
設置率	56.3%

(2) 構成員の人数

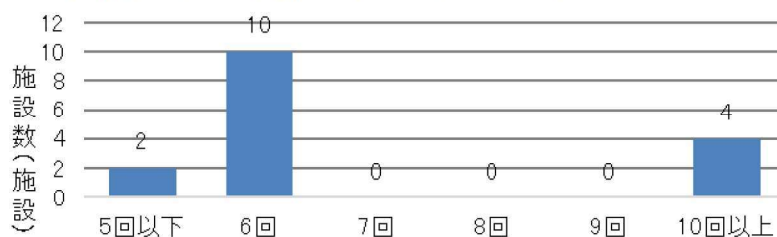
ア 構成員の総数（単位：人）

回答総数	173
平均人数	9.6

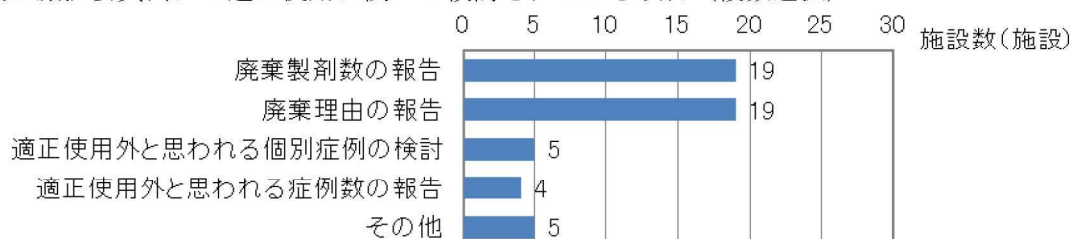
イ 職種別の構成員の平均人数（単位：人）

	県内の総数	平均人数
医師	37	2.1
看護師	51	2.8
薬剤師	15	0.8
検査技師	22	1.2
事務	15	0.8
その他	30	1.7

ウ 4月～3月の間に実施した輸血療法委員会の回数



エ 輸血療法委員会にて適正使用に関して検討されている項目（複数選択）



2 学会（日本輸血・細胞治療学会）資格保有者について

	回答総数	平均人数
輸血認定医	0	0
認定輸血検査技師	0	0
認定臨床輸血看護師	1	0.03
認定自己血看護師	0	0
認定アフゼレーシスナース	0	0
細胞治療認定管理師	0	0

3 専従（専任）医、専従（専任）技師について

(1) 輸血責任医師の設置状況

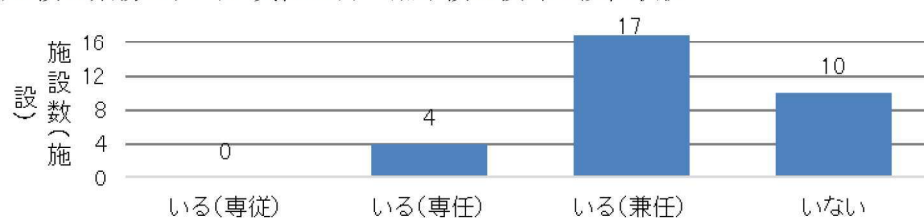


※専従：80～100%従事、専任：40%以上従事、兼任：40%未満

(2) 輸血責任医師の所属診療科

外科系	外科	2
	呼吸器外科	0
	整形外科	0
	脳外科	0
	血管外科	0
	心臓血管外科	0
内科系	血液内科	0
	消化器内科	2
	腎臓内科	0
	内科	8
	内分泌科	0
	総合内科	0
その他	麻酔科	0
	臨床検査	0
	総合診療	0

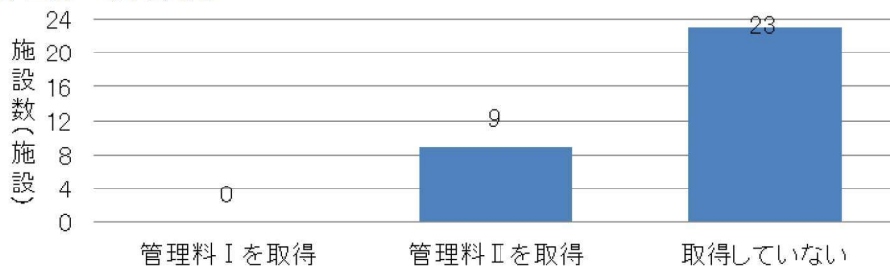
(3) 輸血検査業務を担当し責任を持つ臨床検査技師の設置状況



※専従：80～100%従事、専任：40%以上従事、兼任：40%未満

4 輸血管理料について

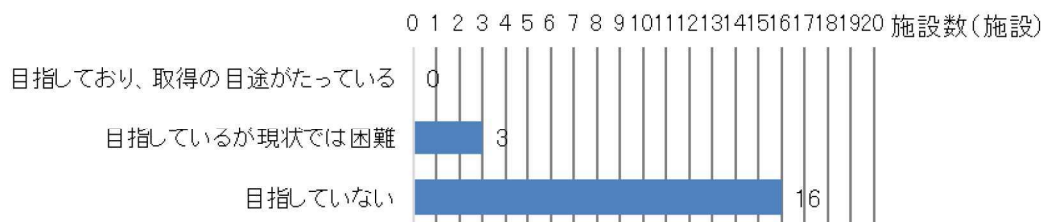
(1) 輸血管理料の取得状況



ア 輸血管理料を取得している場合の適正使用加算の取得状況 (適正使用加算取得施設／輸血管理料取得施設)

適正使用加算を取得している施設数	6/9
割合(※管理料取得施設中の割合)	66.7%

イ 輸血管理料を取得していない場合の管理料取得の意思



(2) 管理料取得が困難若しくは目指していない場合の理由(複数回答)

輸血療法委員会の開催回数をクリアできない。	7
専任(専従)の輸血責任医師が配置されていない。	13
専任(専従)の常勤臨床検査技師が配置されていない。	13
輸血製剤およびアルブミン製剤の一元管理がされていない。	3
指定された輸血関連検査が常時実施できる体制ではない。	7
輸血前後の感染症検査ができない。	1
輸血前の検体保存ができない。	2
副作用監視体制ができない。	1
輸血療法の実施に関する指針および血液製剤の使用指針が厳守できない。	0
その他	4

5 輸血関連研修会の開催について(単位:施設)

開催している	3
開催していない	29

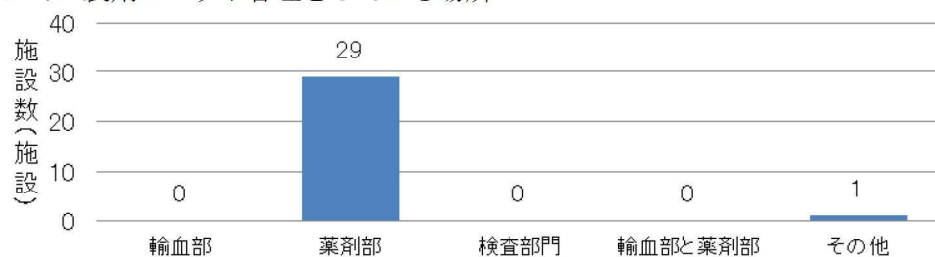
6 初診時の輸血歴確認について(単位:施設)

初診時に過去の輸血歴を確認する体制の整備状況

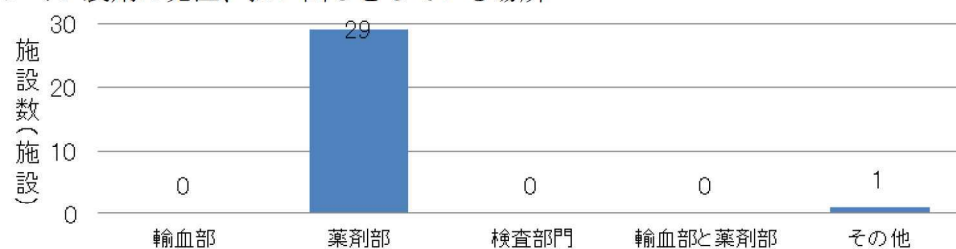
整備されている	5
整備されていない	26

7 アルブミン製剤の管理について

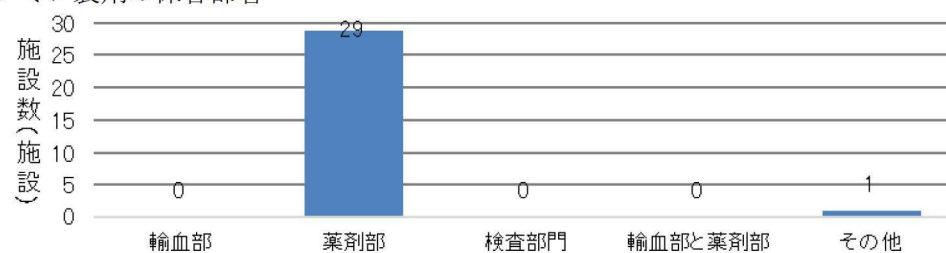
(1) アルブミン製剤のロット管理をしている場所



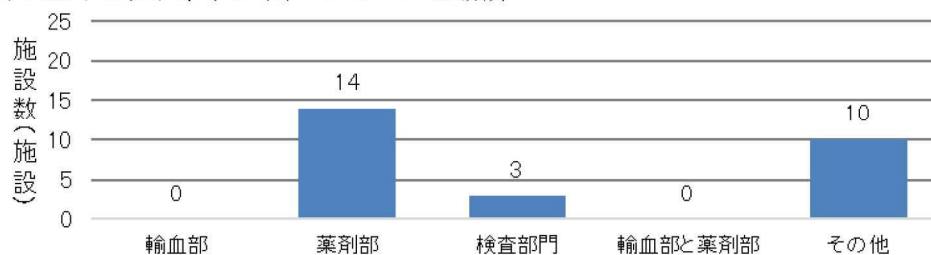
(2) アルブミン製剤の発注、払い出しをしている場所



(3) アルブミン製剤の保管部署



(4) 時間外における発注、払い出しをしている場所



8 輸血副作用発生時の報告体制について (単位: 施設)

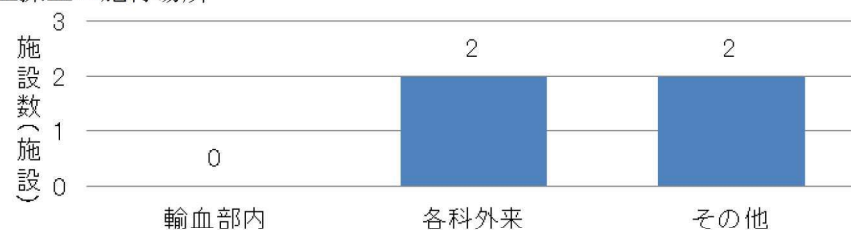
有り	25
無し	7

9 自己血について

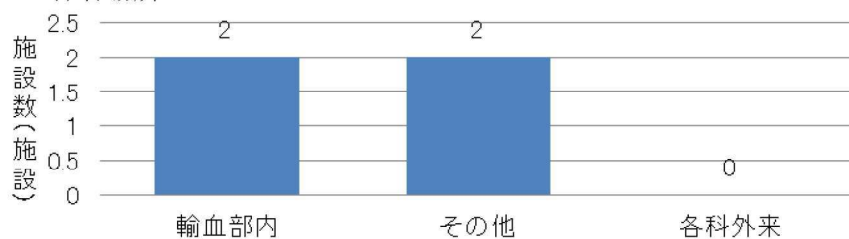
(1) 自己血貯血の施行について (単位: 施設)

施行している	4
施行していない	28

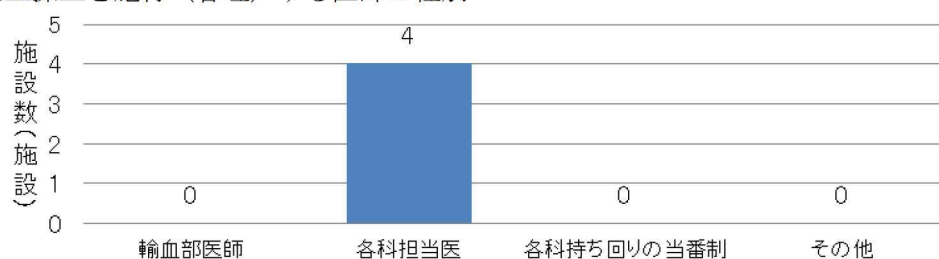
(2) 自己血採血の施行場所



(3) 自己血の保管場所

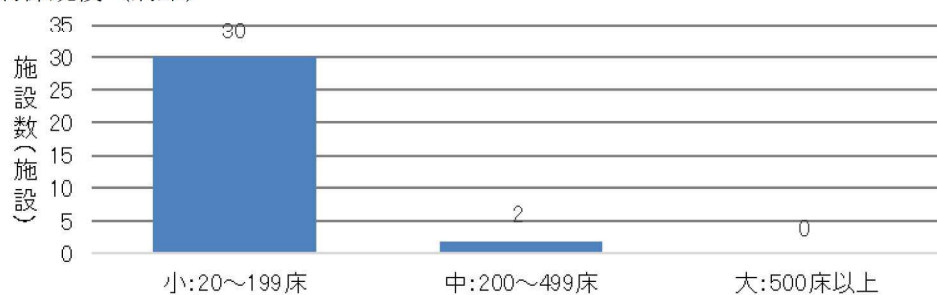


(4) 自己血採血を施行(管理)する医師の種別



病院機能分類について

(5) 一般病棟規模(病床)



(6) 詳細分類

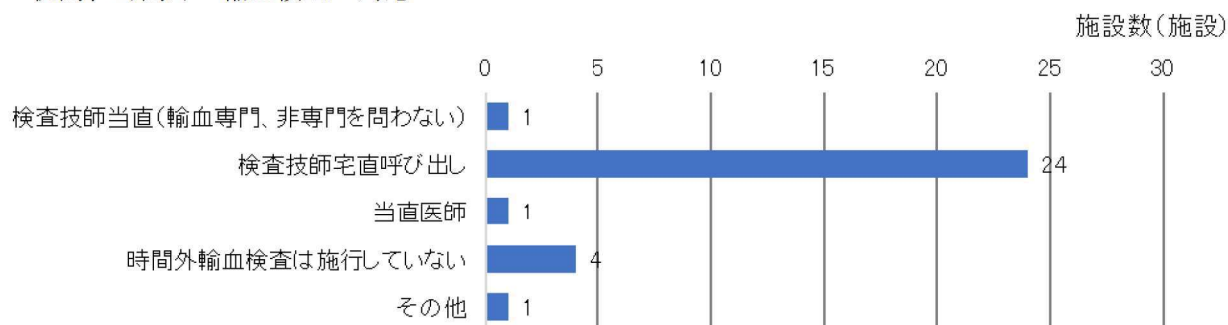
病床	No.	分類	施設数
小	1	全麻：無 心臓：無 造血：無 血漿：無	11
	2	全麻：少 心臓：無 造血：無 血漿：無	9
	3	全麻：少 心臓：無 造血：無 血漿：有	1
	4	全麻：多 心臓：無 造血：無 血漿：無	1
	21	全麻：無	6
	22	全麻：少	1
	23	全麻：多	1
中	6	全麻：少 心臓：無 造血：無 血漿：無	2

<病院機能別分類表>

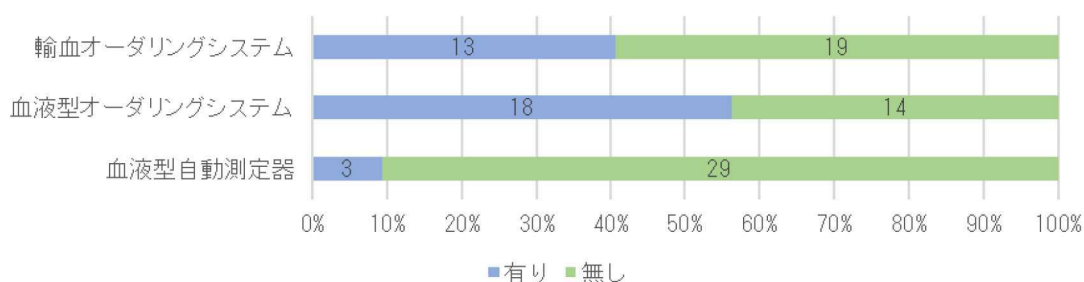
病院機能（略称）	分類		
一般病床規模（病床）	小：20～199床	中：200～499床	大：500床以上
全麻手術件数（全麻）	なし	少：2.00件未満 ／年・病床当り	多：2.00件以上 ／年・病床当り
心臓手術（心臓）	なし	有り	
造血幹細胞移植（造血）	なし	有り	
血漿交換（血漿）	なし	有り	

11 輸血検査、供給体制について（単位：施設）

(1) 夜間、時間外の輸血検査の対応



(2) 検査機器、オーダーリングシステムの整備状況



(3) 輸血前感染症検査の実施状況（単位：施設）

実施している	23
実施していない	7

(4) 輸血前検体保存の実施状況（単位：施設）

実施している	21
実施していない	10

(5) 術式別の平均的な輸血量（T）と準備血液量（C）の比（C/T比）の統計についての実施状況（単位：施設）

実施している	1
実施していない	30

(6) 危機的出血に対する緊急輸血（O型輸血）を施行できる体制の整備状況（単位：施設）

有り	5
無し	26

(7) 赤血球製剤、血漿製剤の在庫の所持状況（単位：施設）

有り	0
無し	31

輸血統計について

(8) 血液製剤の年間総使用量（各年４月～３月）

	赤血球製剤 (単位)	血小板製 剤 (単位)	FFP-LR120 (袋)	FFP-LR240 (袋)	FFP-LR480 (袋)
総使用量	5,988	1,045	0	105	125
使用施設数	29	12	0	4	4
施設平均	206.5	87.1	0.0	26.3	31.3

ア 病床別の平均使用量

(中：200～499床)	赤血球製剤 (単位)	血小板製 剤 (単位)	FFP-LR120 (袋)	FFP-LR240 (袋)	FFP-LR480 (袋)
総使用量	1,131	90	0	4	0
使用施設数	2	2	0	1	0
施設平均	565.5	964.1	0.0	4.0	0.0
(小：20～199床)	赤血球製剤 (単位)	血小板製 剤 (単位)	FFP-LR120 (袋)	FFP-LR240 (袋)	FFP-LR480 (袋)
総使用量	4,857	955	0	101	125
使用施設数	27	10	0	3	4
施設平均	179.9	95.5	0.0	33.7	31.3

イ 診療科別使用量

	赤血球製剤 (単位)	血小板製 剤 (単位)	FFP-LR120 (袋)	FFP-LR240 (袋)	FFP-LR480 (袋)
心臓血管外科	0	0	0	0	0
呼吸器外科	0	0	0	0	0
消化器外科	465	24	0	61	0
脳神経外科	121	1	0	2	0
整形外科	437	0	0	0	0
その他外科	86	10	0	0	0
血液内科	156	50	0	0	1
消化器内科	585	130	0	0	0
呼吸器内科	0	0	0	0	0
循環器内科	132	0	0	31	0
腎臓内科	296	0	0	0	0
神経内科	667	10	0	4	0
その他内科	1,170	270	0	0	2
産婦人科	10	40	0	6	0
泌尿器科	32	0	0	0	0
耳鼻科	0	0	0	0	0
救急科	6	0	0	0	0
その他診療科	260	30	0	0	0
合計	4,423	565	0	104	3

※診療科別に分類できなかった施設があるため、合計値は総使用量と一致しない。

(2) 血液製剤の年間廃棄量及び平均廃棄量（各年４月～３月）

	赤血球製剤 (単位)	血小板製 剤 (単位)	FFP-LR120 (袋)	FFP-LR240 (袋)	FFP-LR480 (袋)
総廃棄量	34	0	0	1	0
施設数	29	12	0	4	4
平均廃棄量	1.2	0.0	0.0	0.3	0.0

ア 病床別の平均廃棄量

(中：200～499床)	赤血球製剤 (単位)	血小板製 剤 (単位)	FFP-LR120 (袋)	FFP-LR240 (袋)	FFP-LR480 (袋)
総廃棄量	2	0	0	0	0
施設数	1	0	0	0	0
平均廃棄量	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
(小：20～199床)	赤血球製剤 (単位)	血小板製 剤 (単位)	FFP-LR120 (袋)	FFP-LR240 (袋)	FFP-LR480 (袋)
総廃棄量	32	0	0	1	0
施設数	7	0	0	1	0
平均廃棄量	4.6	0.0	0.0	1.0	0.0

(3) 血漿分画製剤の年間使用量

ア 加熱人血たん白

	4.4% 100mL	4.4% 250mL
使用本数	0	7
使用施設数	0	1
施設平均（本）	0.0	7.0

イ 人血清アルブミン

	5% 100mL	5% 250mL	20% 20mL	20% 50mL	25% 20mL	25% 50mL
使用本数	0	115	0	64	0	2,241
使用施設数	0	5	0	1	0	21
施設平均（本）	0.0	23.0	0.0	64.0	0.0	106.7

ウ 静注用免疫グロブリン

	10mL 0.5g	20mL 1g	50mL 2.5g	100mL 5g	200mL 10g	5mL 0.5g
使用本数	0	0	26	139	0	0
使用施設数	0	0	2	5	0	0
施設平均（本）	0.0	0.0	13.0	27.8	0.0	0.0

	25mL 2.5g	50mL 5.0g	100mL 10g	200mL 20g
使用本数	0	158	0	4
使用施設数	0	6	0	1
施設平均（本）	0.0	26.3	0.0	4.0

(4) 使用している血漿分画製剤の種類

血液製剤名	種別	原料血液	施設数
加熱人血血漿たん白	4.4%	国内献血由来	1
加熱人血血漿たん白	4.4%	それ以外	0
人血清アルブミン	5%	国内献血由来	3
人血清アルブミン	5%	遺伝子組換え	0
人血清アルブミン	5%	それ以外	3
人血清アルブミン	20%	国内献血由来	1
人血清アルブミン	20%	遺伝子組換え	0
人血清アルブミン	20%	それ以外	0
人血清アルブミン	25%	国内献血由来	16
人血清アルブミン	25%	遺伝子組換え	0
人血清アルブミン	25%	それ以外	4
静注用免疫グロブリン	全て	国内献血由来	13
静注用免疫グロブリン	全て	それ以外	0

(5) 血漿分画製剤の原料血液由来に関する同意書への記載状況（単位：施設）

記載している	14
記載していない	15

13 外来輸血について

(1) 外来輸血の実施について（単位：施設）

行っている	20
行っていない	12

(2) 外来輸血の件数について（令和5年度実績）（単位：回）

	病院規模別		
赤血球製剤	大	0	238
	中	4	
	小	234	
血小板製剤	大	0	4
	中	0	
	小	4	
新鮮凍結血漿	大	0	1
	中	0	
	小	1	

14 「輸血チーム医療に関する指針」に記載された多職種輸血チーム医療体制の構築について

(1) 輸血療法委員会で輸血チーム医療の実施体制についてテーマになっているか（単位：施設）

なっている	0
なっていない	29

(2) 多職種輸血チーム医療体制の発足について（単位：施設）

発足している	0
近く発足予定	0
現時点で予定なし	29

- (3) 薬剤師による血液製剤の管理や使用に関する疑義照会や同意説明補助について（単位：施設）

行われている	5
近く対応予定	0
現時点で予定なし	24

- (4) 臨床検査技師による血液製剤の管理や使用に関する疑義照会や同意説明補助について（単位：施設）

行われている	4
近く対応予定	0
現時点で予定なし	25

- 15 合同輸血療法委員会専門部会で定めた検査技師ネットワークによる支援体制を活用しているか（単位：施設）

活用している	0
活用したことがない	30

- 16 新型コロナウイルス感染症との関連性

- (1) 新型コロナウイルス感染症患者の入院の受け入れについて（単位：施設）

受け入れている	26
受け入れていない	5

- (2) 新型コロナウイルス感染症患者への輸血を必要とした症例があったか（単位：施設）

有り	0
無し	27

- (3) 輸血療法において、新型コロナウイルス感染症の影響があったか（単位：施設）

有り	1
無し	28

- (4) 影響を受けたと考えられる診療科系及び期間とその理由

●年間件数

	外科系	内科系	その他
手術の制限	0	0	0
新規入院患者の制限	4	4	0
外来受入れの制限	0	0	0
外来受診者の減少	0	0	0
その他	0	0	0
計	4	4	0
総合計	8		

●月別内訳

	外科系				内科系			
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
手術の制限	0	0	0	0	0	0	0	0
新規入院患者の制限	1	1	1	1	1	1	1	1
外来受入れの制限	0	0	0	0	0	0	0	0
外来受診者の減少	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	1	1	1	1	1	1	1

WG5：定期刊行物（普及啓発メディアの確立）

岐阜県総合医療センター 輸血部 福岡 玲

年2回刊行している専門部会 NEWS は、毎年度、第1回専門部会で活動計画を立案後に第1号を配信し、第5回専門部会後に総括として第2号を配信する。

専門部会員施設は県内輸血使用量上位8施設であるため、岐阜県輸血医療機関連絡協議会に参加する上位30施設に専門部会活動を広報するためには、施設連絡協議会メーリングリストによる周知が必須である。各施設の輸血療法委員会で情報共有していただく事を期待している。

ここ数年間は新型コロナウイルス感染拡大の影響から、従来の専門部会活動が制限される状況にあった。新型コロナウイルス感染症の5類移行を受けて、昨年度途中から徐々に従来の活動を再開しつつあり、行動制限下で培ったWebを活用した活動と合わせて、第2号でその活動実績を報告出来るのは喜ばしい限りである。

各施設で専門部会 NEWS を活用して取り組んでいただきたい課題として、①輸血管理体制の整備、②血液製剤使用量のチェック（90%超過の改善）、③廃棄率の抑制、④学会認定医、認定検査技師、認定看護師の確保と院内活動での位置づけ支援、⑤I & A基準の確認と受審の検討、⑥輸血管理料および適正使用加算の取得状況確認、⑦院内研修の必要性評価、⑧学会・研修会情報の提供、⑨院内輸血療法委員会の施策、⑩輸血チーム医療の確立、⑪輸血療法委員会の施策が院内に周知徹底されるための体制整備などがあげられる。

今後も各WGの活動を情報発信していきたい。

専門部会 NEWS

2024 年 7 月 5 日発行

今年度も専門部会 NEWS は、各施設の輸血療法委員会へ岐阜県合同輸血療法委員会専門部会活動で企画した事項や取り組んでいただきたい内容を伝達することを目的としていますので、各施設で有効に活用していただきたいと思います。

岐阜県合同輸血療法委員会の概要

【2024 年度委員会委員】

氏名	所 属	備 考
西野 好則	一般社団法人 岐阜県医師会	常務理事 <副委員長>
鈴木 昭夫	一般社団法人 岐阜県薬剤師会	副会長
森本 剛史	一般社団法人 岐阜県臨床検査技師会	輸血細胞治療部門長
清水 雅仁	国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学医学部附属病院	輸血部長
小杉 浩史	大垣市民病院	血液内科部長 <委員長> <専門部会部会長>
北川 順一	岐阜市民病院	輸血部長
小澤 幸泰	地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院	副院長・血液内科部長
横井 達夫	地方独立行政法人 岐阜県総合医療センター	副院長・輸血部長
福野 賢二	日本赤十字社 高山赤十字病院	血液内科部長・輸血部長
鶴見 寿	社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院	病院長代理
後藤 英子	岐阜県厚生農業協同組合連合会 中濃厚生病院	血液内科部長
高橋 健	岐阜県赤十字血液センター	所長

専門部会の活動

【活動方針】

岐阜県合同輸血療法委員会は、下部組織である専門部会の活動を通して、県内における血液製剤の使用状況を把握するとともに、課題の整理等を行い、県内の医療機関における適正かつ安全な輸血療法の向上を目指し、血液製剤の使用適正化を推進するための活動を行う。

【事業計画】

- (1) 合同輸血療法委員会の開催 1 回（2025 年 2 月）
- (2) 専門部会の開催（5 回程度） 及び 輸血医療機関連絡協議会の開催 1 回（2025 年 2 月）
- (3) 厚生労働省「血液製剤使用適正化方策調査研究事業」申請
- (4) 輸血療法連絡会（東海地区）への参加

【ワーキンググループ（作業部会）と WG リーダー】

オンラインコミュニケーションツールを併用活用した適正化推進事業の展開

- | | |
|-------------------------------|--|
| ◆ WG1: 血液製剤使用状況の把握（実態調査とその解析） | 大垣市民病院・高木雄介 |
| ◆ WG2: 情報交換の場の育成 | 大垣市民病院・小杉浩史
岐阜県薬剤師会・澤田綾子（薬剤師担当）
大垣市民病院・平野美佳（看護師担当） |
| ◆ WG3: 相互視察の実施と情報共有 | 岐阜大学医学部附属病院・中村信彦
岐阜県総合医療センター・福岡玲（副）
松波総合病院・脇坂志保（副） |
| ◆ WG4: 小規模医療機関におけるニーズの把握 | 岐阜県医師会・西野好則 |
| ◆ WG5: 定期刊行物の発行 | 岐阜県総合医療センター・福岡玲 |
| ◆ WG6: 輸血学会認定検査技師の育成強化 | 岐阜県臨床検査技師会・森本剛史 |
| ◆ WG7: 学術企画 | 大垣市民病院・小杉浩史
岐阜県赤十字血液センター・志知俊 |
| ◆ WG8: 標準ツールの開発 | 岐阜県立多治見病院・小澤幸泰
大垣市民病院・小杉浩史 |

【活動内容】

	活動項目	活動内容
1	実態調査	・県血液製剤使用状況調査の実施(2023 年度分) ・学会調査と県調査の突合による解析(2022 年度分) ・I&A セルフチェックアンケートの継続
2	情報交換の場の育成	・輸血医療機関連絡協議会の開催:2025 年 2 月 1 日(土)予定 ・各医療機関輸血療法委員会 等 への オブザーバー 参加・支援 (3 施設調整中) ・第 2 回/第 4 回専門部会への医療機関招聘(2 施設調整中) ・職種別 ネットワークによる会合及び研修会 薬剤師研修会:2024 年 8~9 月開催予定(岐阜県薬剤師会と連携) - 学会認定・臨床輸血看護師会合 看護師輸血業務調査アンケート解析 ・多職種チーム医療連携ネットワークによる相互支援体制 ・I&A 受審推進(輸血管理料 I 取得施設対象)
3	相互視察の実施と情報共有	・Web 研修及び交流プログラム ・病院施設研修 ・e-learning ツールの活用拡大
4	小規模医療機関のニーズ把握	・岐阜県医師会と連携して実施
5	定期刊行物の発行	・専門部会 NEWS の発行(年 2 回程度)
6	輸血学会認定検査技師の育成強化	・認定輸血検査技師の早急なる充足 ・輸血検査実技研修会の開催(岐阜県臨床検査技師会と連携) ・検査技師ネットワーク相談支援
7	学術企画	・岐阜県内の輸血関連講演会への企画参加 企業主催・共催輸血関連講演会情報 2024 年 7 月 10 日(水) (ノボ ノルディスク ファーマ 主催) 2024 年 7 月 17 日(水) (サノフィ 主催) 2024 年 7 月 26 日(金) (ノバルティス ファーマ 主催) 2024 年 7 月 29 日(月) (旭化成ファーマ 主催) 2024 年 7 月 31 日(水) (日本新薬 主催) 2024 年 9 月 20 日(金) (中外製薬 主催) 2024 年 10 月予定 (アツヴィ 主催) 2024 年 11 月 13 日(水) (キッセイ薬品 主催)
8	標準ツールの開発	・新規・更新内容あれば対応
9	その他	・新規プロジェクトの創造

【血液製剤の適正使用に関する指標】

血液製剤の適正使用に関する指標

		指標項目	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
各医療機関における管理体制の評価	組織体制の整備	責任医師任命率	100% (30/30)	100% (30/30)	100% (30/30)	93% (28/30)	93% (28/30)
		輸血管理料取得率	87% (26/30)	87% (26/30)	93% (28/30)	87% (26/30)	97% (29/30)
		輸血療法委員会開催回数 達成率	97% (29/30)	97% (29/30)	97% (29/30)	87% (26/30)	93% (28/30)
	積極的な取組	学会I&A自己評価率	100% (30/30)	100% (30/30)	100% (30/30)	100% (30/30)	100% (30/30)
		学会I&A認証取得率	27% (8/30)	27% (8/30)	30% (9/30)	27% (8/30)	27% (8/30)
		認定資格保有臨床検査技師 設置率	37% (11/30)	30% (9/30)	30% (9/30)	33% (10/30)	30% (9/30)
適正 使用 の 指 標	○病院機能分類別血液製剤 使用量 90%超使用施設数		33% (10/30)	30% (9/30)	30% (9/30)	36.7% (11/30)	26.7% (8/30)
	○血液製剤廃棄の抑制		赤血球 製剤廃 棄率 1.75%	赤血球 製剤廃 棄率 1.80%	赤血球 製剤廃 棄率 1.65%	赤血球 製剤廃 棄率 0.97%	赤血球 製剤廃 棄率 1.11%

血液製剤使用量上位30医療機関へのアンケート調査結果から経年的に状況を把握

血液製剤廃棄率は県全体として毎年着実に減少してきているが、個別には中小規模病院ごとのさらなる低減に向けて更なる取組み・支援が必要である。

【認定輸血検査技師ネットワーク支援】

学会 I&A 認証取得施設に所属する認定輸血検査技師による各医療機関の輸血担当技師へのネットワーク支援を行っています。輸血検査や血液製剤管理等で疑問に感じている事、困っている事があれば、担当の認定輸血検査技師までご相談ください。

第14回 学会認定・臨床輸血看護師認定試験(2024年度)の受験申請が開始しています。

今年度は、2024年11月2日(土)午後に講習会、3日(日)午前に試験が実施される予定となっており、輸血治療を行っている施設の看護師で臨床経験が通算3年以上あれば、受験申請が可能です。

申請締め切りは2024年7月31日(必着)です。輸血治療に携わる看護師の方は受験してみませんか。

また、すでに資格を取得されている方の認定期間は認定日から5年間です。2020年4月に認定された方は、2025年2月に更新登録が必要です。詳細はホームページ等でご確認ください。

認定輸血検査技師試験

一次試験終了！

2024年度認定輸血検査技師試験は2024年6月29日(土)に一次試験(筆記)が実施され、9月1日(日)に二次試験(実技)が予定されています。

2025年度の受験申請は2025年1月頃に開始されます。受験申請には、①臨床検査技師の業務経験が5年以上(輸血検査3年以上)ある事、②関連学会に通算3年以上在籍している事、③輸血に関する学会・研修会に参加し、指定の単位を満たしている事がが必要です。輸血に携わる検査技師の方は、受験資格を満たしているかホームページ等で是非ご確認ください、受験申請の準備を始めてください。

今後の会合等の予定

(1) 部会日程

- 第2回専門部会 2024年7月11日(木)
- 第3回専門部会 2024年9月12日(木)
- 第4回専門部会 2024年11月21日(木)
- 第5回専門部会 2025年2月1日(土)

(2) その他

★輸血医療機関連絡協議会

日時:2025年2月1日(土) 岐阜大学医学部記念会館 2階講堂

★2024年度岐阜県合同輸血療法委員会

日時:2025年2月21日(金) 岐阜県赤十字血液センター

令和 7 年 2 月 21 日発行

専門部会 NEWS は、岐阜県合同輸血療法委員会専門部会活動で企図した事項や取り組んでいただきたい内容を各施設の輸血医療委員会へ伝達する事を目的としていますので、有効に活用していただきたいと思ひます。

令和 6 年度岐阜県合同輸血療法委員会専門部会の活動報告

【 活動の概要 】

1 昨年度までの専門部会活動一覧

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31/R1	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
岐阜県調査アンケート	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
厚労省・学会アンケート実合	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
適正化推進目標	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
メーリングリスト	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
専門部会会合	6	6	6	5	5	5	5	5	4	5	5	5	5
岐阜県輸血医療機関協議会	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
施設委員会オブザーバー参加				4	4	6	6	6		3	3	3	2
施設研修会講師派遣			2										
臨床輸血看護師会合			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
製剤師アンケート・研修会			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
専門部会オブザーバー招聘	0	0	0	0	0	4	4	4		2	3	3	3
I&Aセルフチェック	1	3	5	8	30	30	30	30	30	30	30	30	30
I&A認定施設	1	1	1	1	1	4(+3)	7	7	7(+1)	8	7	7	8
病院視察研修	2	4	6	6	5	5	6	6		3(web)	1(web)	1	1
岐阜県医師会アンケート			●		●	●		●	●	●	●	●	●
専門部会NEWS	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
検査技師会研修支援	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
認定検査技師	14	14	14	16	19	20	24	23	23	21	18	20	21
学術講演会	1(+3)	1(+3)	1(+3)	1(+4)	1(+4)	1(+4)	1(+3)	1(+7)	0(+4)	0(+5)	0(+5)	0(+6)	0(+8)
標準ツール作成			●			●							
岐阜県医師会研修会			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
輸血チーム医療プロジェクト							●	●					
専門部会学会認定技師支援体制							●	●	●	●	●	●	●

(赤字年度は厚労省血液製剤使用適正化方策調査事業への採択年度を示す)

2 専門部会会合

回	開催日・会場	主な議題と決定
1	令和6年6月6日(木) 岐阜県赤十字血液センター (ハイブリット開催)	- 岐阜県合同輸血療法委員会委員について - 令和6年度の事業計画 - 各WGの活動方針

2	令和6年7月11日（木） 岐阜県赤十字血液センター （ハイブリッド開催）	・ 令和6年度厚生労働省委託事業への計画 ・ 各WGの具体的な進捗状況（WG2：各医療機関輸血療法委員会へのオブザーバー派遣計画、病院薬剤師研修会の計画、WG3：モデル的施設現地視察の計画、WG5：専門部会NEWSVol.1発行、WG6：輸血研修会の計画、WG7：企業主催・共催輸血講演会の案内） ・ 輸血用血液製剤使用適正化に関する現状報告（2施設）
3	令和6年9月12日（木） 岐阜県赤十字血液センター （ハイブリッド開催）	・ 令和6年度厚生労働省委託事業の採択結果と今後の予定 ・ 各WGの具体的な進捗状況（WG1：本年度アンケート内容、WG2：認定看護師会合の計画、WG4：小規模医療機関への血液製剤使用アンケートの計画）
4	令和6年11月21日（木） 岐阜県赤十字血液センター （ハイブリッド開催）	・ 各WGの具体的な進捗状況（WG1：本年度アンケート結果、WG3：e-learningの検討、WG6：認定輸血検査技師の育成状況報告、WG7：学術企画の報告） ・ 各WG活動報告書（案）の検討 ・ 輸血用血液製剤使用適正化に関する取組結果の報告（2施設）
5	令和7年2月1日（土） 岐阜大学医学部記念会館	・ 岐阜県合同輸血療法委員会・専門部会活動報告書検討

2 その他

日時	内容
令和7年2月1日（土） 岐阜大学医学部記念会館	令和6年度 岐阜県輸血医療機関連絡協議会

【各ワーキンググループの活動報告】

WG1：実態調査（大垣市民病院 血液内科 高木雄介）（敬称略・以下同じ）

◆岐阜県合同輸血療法委員会および専門部会による過去の調査では、輸血用血液製剤廃棄率は低下傾向にあるものの、小規模施設で廃棄率低減目標を達成できておらず、特に 100～199 床および 200～299 床規模の病院群で血液製剤の廃棄率が高いことが示された。更なる廃棄低減のために中小規模施設における製剤使用実態の調査解析を行った。

例年、液製剤使用量上位 30 医療機関を対象に行ってきた岐阜県アンケート調査を、血液製剤使用実績のある他の中小規模施設も新たに実施した。

施設規模ごとの赤血球製剤廃棄率は小規模 2.24%、中規模 0.76%、大規模 0.16%であった。赤血球製剤の年間納入単位数は全体の中で大規模施設の占める割合が大きく（61.5%）、中小規模施設の占める割合が小さいが、廃棄単位数については小規模施設による廃棄が全体の過半数（52.2%）を占めていた。赤血球製剤の廃棄率は例年よりも全体的に低下が見られ、赤血球製剤の有効期限延長が廃棄率の低下に寄与した可能性が考えられた。

血小板製剤については、大規模病院での使用・廃棄が多く、小規模施設が全体の納入単位数や廃棄単位数に占める割合は小さかった（5.2%と 8.3%）。血漿製剤については中規模施設での廃棄単位数が多く、廃棄率も高かった（11.4%）。

◆血液製剤の適正使用に関する指標の推移

施設によって輸血業務の実態には差があるが、さらなる充実化のためには、各施設の実態を合同療法委員会で把握し、それぞれの状況に応じたきめ細かい啓発活動を行なっていくことが必要であると考え。

		指標項目	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
各医療機関における管理体制の評価	組織体制の整備	責任医師任命率	100% (30/30)	100% (30/30)	100% (30/30)	93% (28/30)	93% (28/30)
		輸血管理料取得率	87% (26/30)	87% (26/30)	93% (28/30)	87% (26/30)	97% (29/30)
		輸血療法委員会開催回数 達成率	97% (29/30)	97% (29/30)	97% (29/30)	87% (26/30)	93% (28/30)
	積極的な取組	学会I&A自己評価率	100% (30/30)	100% (30/30)	100% (30/30)	100% (30/30)	100% (30/30)
		学会I&A認証取得率	27% (8/30)	27% (8/30)	30% (9/30)	27% (8/30)	27% (8/30)
		認定資格保有臨床検査技師 設置率	37% (11/30)	30% (9/30)	30% (9/30)	33% (10/30)	30% (9/30)
適正使用の指標	○病院機能分類別血液製剤 使用量 90%超使用施設数		33% (10/30)	30% (9/30)	30% (9/30)	36.7% (11/30)	26.7% (8/30)
	○血液製剤廃棄の抑制		赤血球 製剤廃 棄率 1.75%	赤血球 製剤廃 棄率 1.80%	赤血球 製剤廃 棄率 1.65%	赤血球 製剤廃 棄率 0.97%	赤血球 製剤廃 棄率 1.11%

血液製剤使用量上位30医療機関へのアンケート調査結果から経年的に状況を把握

WG2：普及啓発および情報交換の場の育成（大垣市民病院 血液内科 小杉浩史）

◆WG2 では、「普及啓発及び情報交換の場の形成」をテーマとして、①メーリングリストを活用した情報共有、情報交換、②職種別ネットワークの形成を通じた、各種協議、会合の促進（臨床輸血看護師ネットワーク、薬剤師ネットワーク）、③各施設輸血療法委員会との連携（各施設輸血療法委員会への専門部会からのオブザーバー参加、各施設からの専門部会会議へのオブザーバー参加招聘）、④WG6 と連携した検査技師ネットワークによる相談支援体制、⑤多職種チーム医療連携ネットワークによる相互支援体制の構築、などを行ってきている。

今年度においては、昨年度同様、薬剤師研修会をオンライン及び現地参加のハイブリッド方式で行い過去最大数の参加を得、県内の全ての二次医療圏からの参加を得た。また、臨床輸血看護師会合を開催し、昨年度から継続の「輸血看護師業務調査」を実施、解析を行った。

昨年度に続き、施設輸血療法委員会への専門部会からの現地オブザーバー参加を 3 施設で実現し、うち 2 施設は初訪問となった。これに加え、他職種チーム医療ネットワークについても、web 方式での相互支援会議開催の可能性を模索できた。

一方、この数年間、重点的に取り組んできた、中規模医療機関への適正化推進のための支援として、モニタリングしている適正化推進スコアと廃棄率の解析では、中規模医療機関で改善の兆しを見出せた。

◆学会認定・臨床輸血看護師ネットワーク

昨年度に引き続き、臨床輸血認定看護師会合をハイブリッド方式で開催した。会合開催に先立ち、“院内研修”に関するアンケート調査を実施し、それを基に情報共有を行った。会合終了後にもアンケートを実施した。

院内研修の資料作成を臨床輸血看護師が担っている施設が多く、これまでに作成した教育資料や研修計画などの資料を県内病院が利用しやすい体制を作ると共に、今後も臨床輸血看護師会合を開催して情報共有の場をつくり活動を活性化していく事を確認した。

今後も会合の頻度や開催方法、テーマの選定等について検討を重ね、ネットワークの形成が促進される取り組みの継続が必要である。

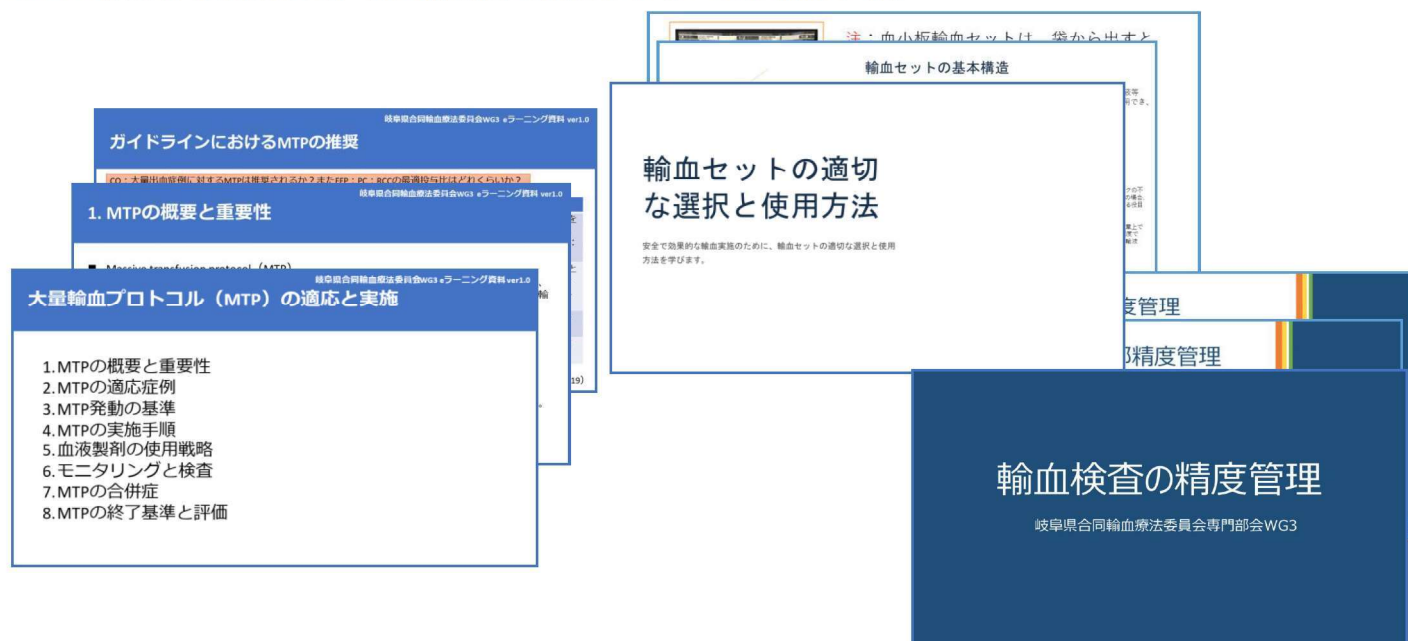
◆岐阜県薬剤師会・病院薬剤師会ネットワーク

オンライン及び現地参加のハイブリッド方式で、研修会を行い過去最大数の参加となった。また、県内の全ての二次医療圏からの参加を得た。また、今年度より昨年度参加者の要望を反映し、各研修制度の単位取得が可能となった。薬剤師を対象とした輸血に関する研修会は一定のニーズがあり、今後も定期的な開催が望まれる。

WG3：モデル的な施設事例の収集および紹介（岐阜大学医学部附属病院 輸血部 中村信彦）

◆WG3の主な目的は、「①規模の大きい病院においては専門部会メンバーを起点として輸血チームの構築につなげること」、「②岐阜県全域を考えた場合は専門部会に参加していない中小規模病院の輸血レベルの向上に寄与すること」である。新型コロナウイルス流行に伴い現地研修が困難となったため、令和2年度から施設訪問を伴わないWeb研修・交流プログラムを行なってきたが、昨年度より現地研修を再開することができた。今年度の現地研修（1施設）には医師1名、看護師6名、臨床検査技師5名の合計12名が参加した。また、Web研修は遠方からの参加が可能であり、現地とWebの両方の利点を活かした相互研修プログラムを通じて、輸血レベルの向上や輸血チーム医療の構築に貢献したいと考えている。

一昨年度に作成したe-learning資料「輸血実施手順について」に引き続き、今年度は「大量輸血プロトコル（MTP）の適応と実施」、「輸血セットの適切な選択と使用方法」、「輸血検査の精度管理」の3つのe-learning資料を作成した。各医療機関で活用されることを期待する。



WG4：小規模医療機関のニーズ把握（岐阜県医師会 西野好則）

◆今年度は血液製剤供給量上位 30 医療機関に対し実施している岐阜県血液製剤アンケート調査を、過去に調査してこなかった上位 30 医療機関以外の小規模医療機関に対して実施した。

本調査において回答の得られた小規模医療機関においては、輸血療法委員会が設置されている施設は 56.3%、輸血責任医師が任命されている施設は 37.5%であり、人員体制に課題があることが判明した。今後、小規模医療機関に対する血液製剤の適正使用に向けた取り組みを検討していきたい。

WG5：定期刊行物（普及啓蒙メディアの確立）（岐阜県総合医療センター 輸血部 福岡玲）

◆年 2 回刊行している専門部会 NEWS は、毎年度、第 1 回専門部会で活動計画を立案後に第 1 号を刊行し、第 5 回専門部会および岐阜県合同輸血療法委員会後に総括として第 2 号を配信している。

専門部会メンバー施設は血液製剤供給量上位 8 施設であるため、30 施設に専門部会活動を広報するためには、連絡協議会メーリングリストによる周知が必須である。各施設の輸血療法委員会で、情報共有いただき、委員会活動に反映していただくことを期待している。

WG6：県内輸血検査技師育成方法論の確立（岐阜県臨床検査技師会 森本剛史）

◆令和 6 年度の認定輸血検査技師試験において 2 名合格の報告を受け、岐阜県内の認定輸血検査技師数は合格や移動を合わせて 2025 年 1 月時点で 21 名となった。しかしながら各都道府県の病床数 10000 床に対する認定輸血検査技師数、技師会員に対する認定技師割合ともに、全国平均を下回る結果となった（図 1）。

岐阜県内の認定技師の分布は、昨年と比較して小病院群において合格施設が増加したため、数値を伸ばす結果となった（図 2）。一方、中・大病院群においての変化はみられなかった。特に、300～499 床群は認定技師が少なく、岐阜県においての近年の大きな課題であり、専門部会や輸血医療機関連絡協議会でも報告してきた。近年の活動の成果として中小規模病院の受験者希望者があり、今後の結果に期待したい。また、県内においての認定技師と認定看護師の分布を図 3 に示す。

次年度も専門部会や技師会活動を通して更なるバックアップを行っていく必要がある。認定輸血検査技師試験は難易度も高く、簡単なことではないが、まずは 500 床以上群 100%、300～499 床群 50%以上を目標として取り組みたい。

図 1 【岐阜県内の認定輸血検査技師数と全国順位の推移】



図2 【岐阜県内の認定輸血検査技師の病院分類別分布状況】

病院分類	全国 *1	岐阜県 (R1.11.30)*2	岐阜県 (R6.06.29)*3	岐阜県 (R07.01.27)
500床以上	88.17%	100.0%	85.7%(6/7)	85.71%(6/7)
300～499床	50.35%	30.0%	16.7%(2/12)	16.7%(2/12)
1～299床	5.62%	14.3%	18.2%(2/11)	27.3%(3/11)

*1 平成29年度血液製剤使用実態調査データ集より

*2 令和元年度岐阜県血液製剤購入上位30医療機関より

*3 令和5年度岐阜県血液製剤購入上位30医療機関より

図3 【岐阜県内の認知輸血検査技師と認定看護師の分布（日本輸血細胞治療学会2025.01.27）】



◆技師会での教育活動

今年度もオンライン研修会が中心となった。実技研修会や集合形式の研修会を要望する声も増加しており、今後は検討していく必要がある。来年度も岐阜県の輸血検査の向上を目指し、教育・啓発活動を行い、認定資格取得希望者へのサポートを実施していく。

◆輸血技師ネットワーク相談支援活動

昨年度に引き続き相談支援活動を行った。今後も岐阜県内のI&A視察経験者や認定技師にどんどん相談していただき、院内の輸血療法向上につなげていただきたい。また、I&A受審施設の増加により岐阜県内の輸血管理体制も強化されていると思われる。技師レベルで解決できない相談に対しては、専門部会で多職種を交えて議論することも可能であり、各病院の体制強化や岐阜県の輸血療法の更なる適正化推進に繋がっていくと思われる。

WG7：学術企画（岐阜県赤十字血液センター 岩崎秀一）

◆輸血関連講演会：岐阜県医師会主催、製薬企業開催学術講演会（主にWeb開催）情報を提供した。

WG8：標準ツールの開発（岐阜県立多治見病院 血液内科 小澤幸泰）

◆次年度以降の活動について検討を行った。

【今後の課題と方策】

以下のポイントを踏まえて、オンラインコミュニケーションツールを併用活用して適正化推進を支援する。

- ① 一部の廃棄率目標未達成が持続している中小規模病院への支援を強化・拡充
- ② 専門性資格保有者の活用と拡充
- ③ 開発・教育・研修・監査体制の構築により自律的に適正化推進が可能となるまで相談支援を強化
- ④ モデル的施設としてのI&A認証施設の確保
- ⑤ 各種研修会、e-learning研修のツールの拡充

おわりに

専門部会活動を支えてくださったすべての方々に感謝すると共に、今後も力強いご協力をお願い申し上げます。

令和6年度 岐阜県輸血医療機関連絡協議会

参加施設

- ・ 23/30施設が参加（現地開催）

報告

- ・ 岐阜県合同輸血療法委員会専門部会の活動概要と取り組み内容について（専門部会）
- ・ 日本輸血・細胞治療学会調査 県調査の突合解析について
- ・ I&A自己評価集計結果について
- ・ 専門部会活動総括および今後の専門部会活動について
- ・ 輸血療法委員会活動紹介（4施設）

意見交換と情報提供

- ・ 各施設の取り組みの情報共有や支援体制に対する意見交換などが行われた。

【ご案内】 看護師教育スライド、e-learning 資料をご活用ください！

WG2 では看護師研修教材を 8 項目のテーマに沿って作成し、教育スライドを専門部会共有資料として登録しています。利用目的は、①院内での活用、②県内の医療従事者に対する普及啓発（研修会資料等）、③学会発表などの学術利用、④その他血液製剤の適正使用に推進に資する事業 とします。

また、今年度新たに WG3 で作成した e-learning 資料 3 種（輸血セットの適切な選択と使用方法・輸血検査の精度管理・大量輸血プロトコル）も同様に利用できます。

必要時に申し込みの上、利用可能となっています。ぜひご活用ください。詳細な規約や申し込み方法に関しては下記にお問い合わせください。

【問い合わせ先】 岐阜県合同輸血療法委員会・専門部会事務局

岐阜県赤十字血液センター内

担当 和田美奈

TEL：058-272-6925

FAX：058-278-0393

Mail：[REDACTED]

【お知らせ】 岐阜県合同輸血療法委員会の開催

令和 7 年 2 月 21 日（金）に岐阜県合同輸血療法委員会が岐阜県赤十字血液センターにおいて開催されました。

専門部会の活動は「令和 6 年度岐阜県合同輸血療法委員会専門部会活動報告書」として、小杉部会長により報告されました。

【認定輸血検査技師 取得状況】

令和 6 年度の認定輸血検査技師試験において、今年度は 2 名合格の報告を受け、岐阜県内の認定輸血検査技師数は合格や異動を合わせて 2025 年 1 月時点で 21 名となった。全国的に見た認定輸血検査技師の登録状況は表 1 のとおりで、昨年 1633 名に対して今年度は 1752 名となり、大幅な増加となった。各都道府県の病床数 10000 床に対する認定輸血検査技師数は全国平均 11.83 人に対し岐阜県は 11.05 人（23 位）、技師会員に対する認定技師割合は全国平均 2.55%に対して岐阜県 2.16%であり、岐阜県においては昨年度、今年度と合格者を出しているが、全国平均を下回る結果となった。（図 1、表 1）

岐阜県内の認定技師の分布は、昨年と比較して小病院群において合格施設が増加したため、数値を伸ばす結果となった（図 2）。一方、中・大病院群においての変化はみられなかった。特に、300～499 床群は認定技師が少なく、岐阜県においての近年の大きな課題であり、専門部会や輸血医療機関連絡協議会でも報告してきた。

令和 5 年度事業計画より、『認定輸血検査技師の育成強化』が盛り込まれることとなり、専門部会や技師会研修会などで受験推進活動をおこなってきた。近年の活動の成果として中小規模病院の受験者希望者があり、今後の結果に期待したい。また、県内においての認定技師と認定看護師の分布を図 3 に示す。

次年度も専門部会や技師会活動を通して更なるバックアップを行っていく必要がある。認定輸血検査技師試験は難易度も高く、簡単なことではないが、まずは 500 床以上群 100%、300～499 床群 50%以上を目標として取り組みたい。

図 1 【岐阜県内の認定輸血検査技師数と全国順位の推移】

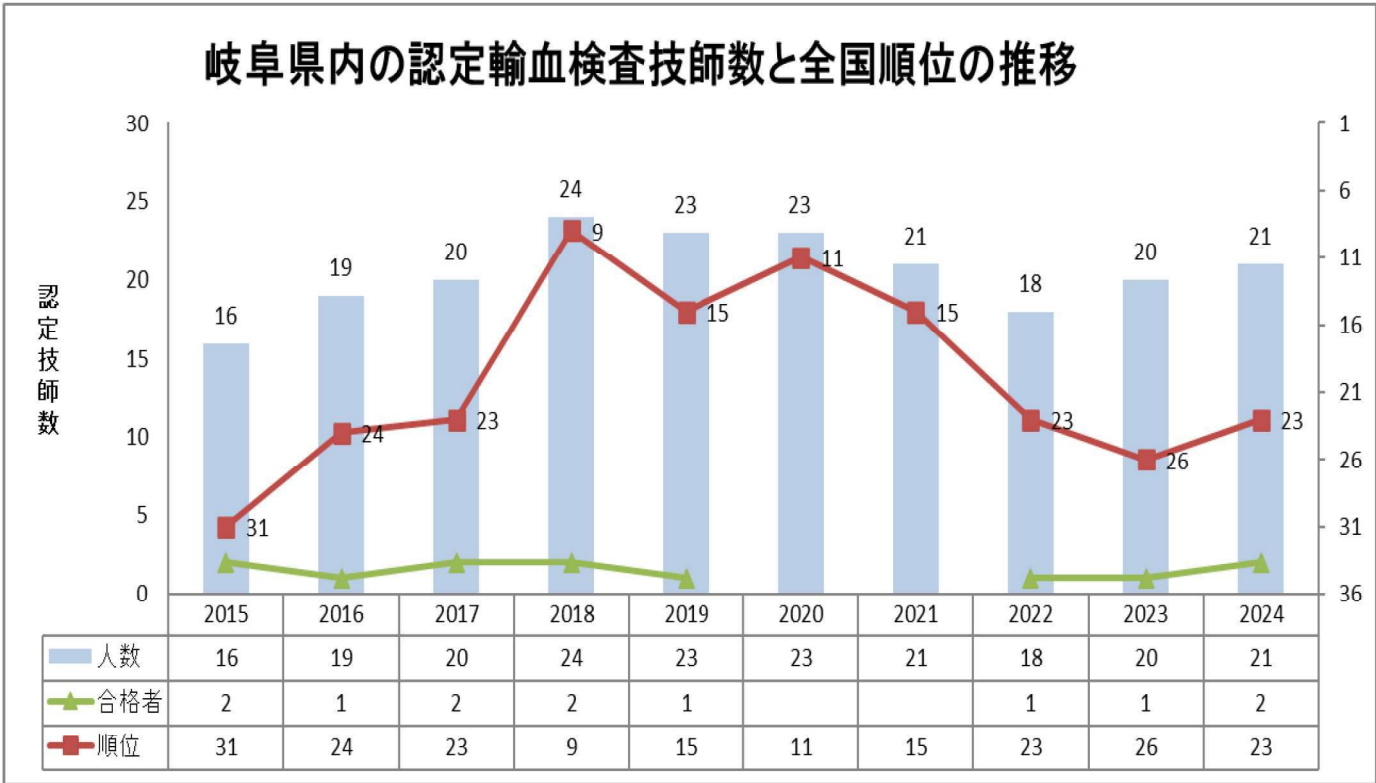


図2 【岐阜県内の認定輸血検査技師の病院分類別分布状況】

病院分類	全国 *1	岐阜県 (R1.11.30) *2	岐阜県 (R6.06.29) *3	岐阜県 (R7.01.27)
500 床以上	88.17%	100.0%	85.7% (6/7)	85.71% (6/7)
300～499 床	50.35%	30.0%	16.7% (2/12)	16.7% (2/12)
1～299 床	5.62%	14.3%	18.2% (2/11)	27.3% (3/11)

図3 【岐阜県内の認定輸血検査技師と認定看護師の分布（日本輸血細胞治療学会 2025.01.27）】

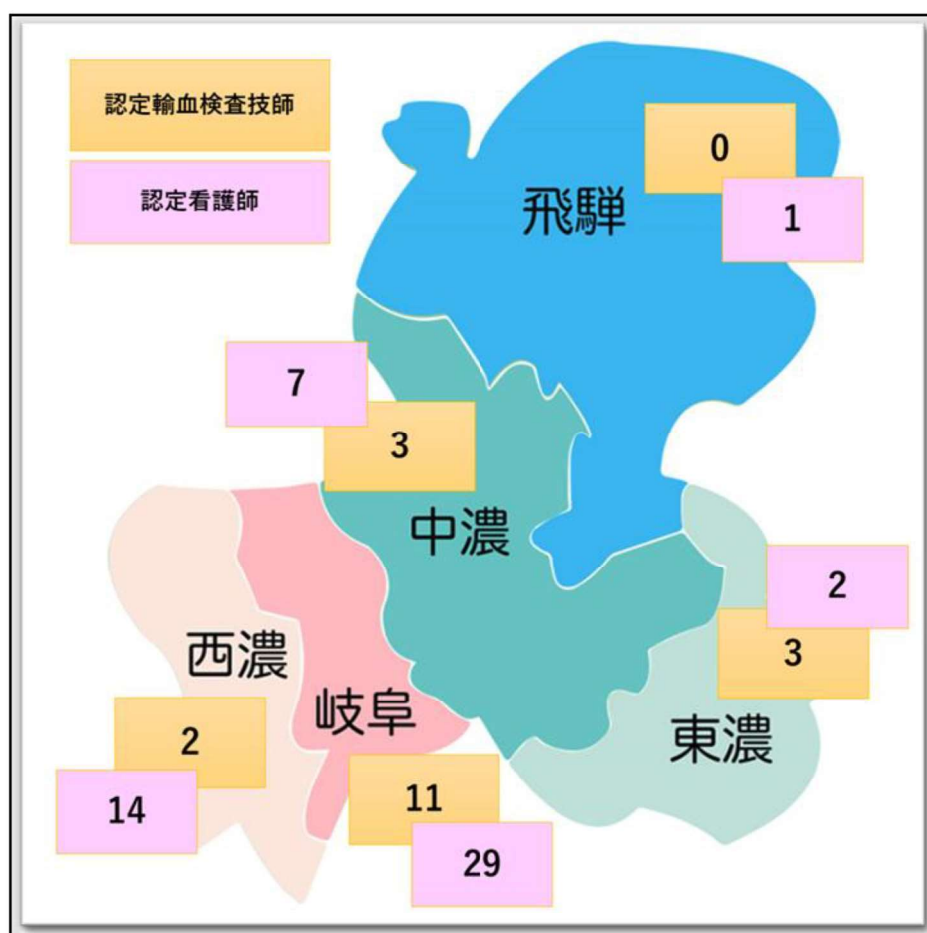


表 1
都道府県別一覧表

2024 順位	2023 順位		2024 認定技師数	2025 認定技師数 (*1)	病床数 (*2)	病床数比(10000 床あたり)	技師会員数 (*3)	技師会員数 あたり
1	2	滋 賀	22	26	13 734	18.93	661	3.93%
2	3	愛 知	100	116	65 230	17.78	3765	3.08%
3	1	新 潟	45	45	25 697	17.51	1356	3.32%
4	4	東 京	183	208	125 457	16.58	7209	2.89%
5	5	香 川	20	23	13 964	16.47	703	3.27%
6	8	三 重	25	31	19 087	16.24	764	4.06%
7	6	長 野	30	36	22 634	15.91	1391	2.59%
8	22	石 川	17	23	16 359	14.06	747	3.08%
9	11	山 形	17	19	13 593	13.98	610	3.11%
10	9	神 奈 川	93	101	73 155	13.81	3740	2.70%
11	10	京 都	39	43	31 776	13.53	1296	3.32%
12	7	大 阪	133	136	102 753	13.24	4020	3.38%
13	13	青 森	20	20	16 069	12.45	627	3.19%
14	28	鳥 取	8	10	8 068	12.39	357	2.80%
15	14	群 馬	27	28	23 222	12.06	1132	2.47%
16	19	福 岡	89	97	81 297	11.93	3492	2.78%
17	30	大 分	20	23	19 430	11.84	836	2.75%
18	17	全 国	1633	1752	1 481 183	11.83	68797	2.55%
19	12	福 島	29	28	23 844	11.74	1113	2.52%
20	15	千 葉	66	69	59 894	11.52	2458	2.81%
21	21	兵 庫	65	71	63 652	11.15	2385	2.98%
22	29	静 岡	34	40	36 026	11.10	1885	2.12%
23	26	岐 阜	20	21	19 000	11.05	970	2.16%
24	20	福 井	11	11	10 051	10.94	403	2.73%
25	33	岡 山	25	29	26 671	10.87	1475	1.97%
26	16	山 口	27	26	24 037	10.82	817	3.18%
27	18	長 崎	29	27	25 144	10.74	899	3.00%
28	24	栃 木	22	22	20 945	10.50	1047	2.10%
29	35	愛 媛	18	21	20 174	10.41	806	2.61%
30	25	北 海 道	92	92	89 889	10.23	3230	2.85%
31	32	佐 賀	14	14	14 035	9.98	336	4.17%
32	27	宮 城	24	24	24 470	9.81	1133	2.12%
33	23	埼 玉	64	61	62 947	9.69	3531	1.73%
34	31	岩 手	15	15	15 850	9.46	532	2.82%
35	34	徳 島	12	12	13 227	9.07	447	2.68%
36	36	奈 良	13	14	15 895	8.81	700	2.00%
37	41	沖 縄	14	16	18 660	8.57	870	1.84%
38	39	高 知	13	13	15 649	8.31	633	2.05%
39	38	富 山	12	12	14 648	8.19	572	2.10%
40	40	茨 城	24	23	30 341	7.58	1353	1.70%
41	43	広 島	24	27	36 868	7.32	1843	1.47%
42	37	島 根	8	7	9 686	7.23	452	1.55%
43	45	熊 本	20	21	32 044	6.55	1423	1.48%
44	42	秋 田	9	9	13 907	6.47	555	1.62%
45	44	和 歌 山	8	8	12 492	6.40	422	1.90%
46	47	宮 崎	10	11	17 815	6.17	517	2.13%
47	46	鹿 児 島	19	18	31 286	5.75	716	2.51%
48	48	山 梨	4	5	10 511	4.76	502	1.00%

(*1) 日本輸血・細胞治療学会より(2025.01.27)
(*2) 厚労省統計より(2023年10月1日現在)
(*3) 日臨技より(2024.6)

【岐阜県臨床検査技師会での教育活動】

教育活動としては岐阜県臨床検査技師会での教育活動としては、今年度もコロナの影響によりウェブ研修会が中心となった。研修会内容については、以下に記す通りである。実技研修会や集合形式の研修会を要望する声も増加しており、今後は検討していく必要がある。来年度も岐阜県の輸血検査の向上を目指し、教育・啓発活動を行い、認定資格取得希望者へのサポートを実施していく。

【令和6年度教育活動】

・第1回岐臨技輸血研修会

令和6年8月17日（土）9：00～13：00

会場：松波総合病院

参加者 5名

内容

1）認定輸血検査技師試験 2次試験対策

・第2回岐臨技輸血研修会

令和6年12月21日（土）14：00～16：00 zoom ミーティング

参加者 27名

内容 1）輸血部門精度管理報告

大垣市民病院

鳥居 知美

2）症例検討

症例①

松波総合病院

本田 倫花

症例②

岐阜大学医学部附属病院

日比 由佳

・第3回岐臨技輸血研修会

令和7年1月18日（土）14：00～16：30

会場：岐阜市民病院

参加者 28名

内容 1）不規則抗体検査と交差適合試験

オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社

Professional Education&学術支援部

齋藤 大輔

2）症例検討

岐阜県総合医療センター

福岡 玲

3）フリートーク

・第4回岐臨技輸血研修会

令和7年2月15日（土）14：00～16：00 Zoom ミーティング

内容 1）認定輸血検査技師制度について

岐阜市民病院輸血部

木下 聖次郎

2）認定輸血検査技師試験を受験して

① J A 岐阜厚生連東濃中部医療センター東濃厚生病院検査科

岩田 将好

② 大垣市民病院医療技術部診療検査科

多賀 みゆき

3）岐阜県内の状況

松波総合病院

森本 剛史

【輸血技師ネットワーク相談支援活動について】

昨年に引き続き、輸血技師ネットワーク相談支援活動を行った。相談支援については、下記に示すように管理の部分が大部分であった。今後も岐阜県内の I&A 視察経験者や認定技師にどんどん相談していただき、院内の輸血療法向上につなげて頂きたい。また、I&A 受審施設の増加により岐阜県内の輸血管理体制も強化されていると思われる。相談においては、技師レベルで解決できない部分は専門部会で多職種を交えて議論することも可能であり、今後も積極的に活用していただくことにより、各病院の体制強化が図られ、岐阜県の輸血療法の更なる適正化推進に繋がっていくと思われる。

地区	施設名	担当者
岐阜	長良医療センター	福岡
	朝日大学病院	浅野
	岐阜清流病院	浅野
	東海中央病院	福岡
	河村病院	福岡
	岐阜赤十字病院	森本
	岐北厚生病院	浅野
	羽島市民病院	角田
	岐阜ハートセンター	角田
	早徳病院	浅野
西濃	西濃厚生病院/揖斐厚生病院	森本
	大垣徳洲会病院	森本
	博愛会病院	森本
	新生病院	森本
中濃	中部国際医療センター	森本
東濃	土岐市立総合病院	樋口
	中津川市民病院	樋口
	岐阜県立多治見病院	樋口
	東濃厚生病院	樋口
	多治見市民病院	福岡
	市立恵那病院	福岡
飛騨	久美愛厚生病院	森本

○相談内容

- ・ 小児患者の輸血対応
- ・ 試験管法の精度管理
- ・ 抗体価測定時の血球
- ・ ISO の SOP 作成
- ・ 抗がん剤アブラキサン同意書
- ・ 輸血部門外の血液保冷庫の管理
- ・ I&A
- ・ 輸血実施の確認方法
- ・ 緊急輸血
- ・ クリオプレシピテート
- ・ 輸血実施時の医師の役割
- ・ 院内輸血研修
- ・ 輸血療法マニュアル

【学術講演会】

●クリニカル web セミナー「輸血と血友病」

開催日時：2024 年 7 月 10 日（水）18:45～20:00

開催方式：オンライン開催（Microsoft Teams）

主 催：ノボノルディスクファーマ株式会社

講 演 I：「安全な輸血療法に向けた検査技師のかかわり」

演 者：松波総合病院 輸血部中央検査室課長 森本 剛史先生

講 演 II：「新たな非凝固因子製剤の登場」

演 者：名古屋大学医学部附属病院 輸血部 鈴木 伸明先生

●岐阜県血友病・輸血懇話会

開催日時：2024 年 7 月 17 日（水）18:40～20:00

開催方式：ZOOM 配信

主 催：サノフィ株式会社

第 一 部：「HIV 感染症の最近の話題」

演 者：松波総合病院 病院長代理 鶴見 寿先生

第 二 部：「輸血適正使用推進活動」

演 者：大垣市民病院 血液内科部長 小杉 浩史先生

第 三 部：「変革期を迎えた血友病診療」

演 者：名古屋大学医学部附属病院 輸血部 鈴木 伸明先生

●岐阜輸血療法 web seminar

開催日時：2024 年 7 月 26 日（金）18:45～19:45

開催形式：オンライン開催（Microsoft Teams）

主 催：ノバルティスファーマ株式会社

講 演：「輸血医療の現状と課題

～特に原料血漿確保と国内自給について」

演 者：東京都赤十字血液センター 所長 牧野 茂義先生

●岐阜 IDA の会

開催日時：2024 年 7 月 31 日（水）19:00～20:00

開催形式：ZOOM 配信

主 催：日本新薬株式会社

講 演：「鉄欠乏性貧血における鉄剤投与の重要性とその使い方」

演 者：川崎医科大学附属病院 血液内科 教授 和田 秀穂先生

●中部造血器腫瘍セミナー

開催日時：2024年9月18日（水）19：00～20：00

開催形式：オンライン（ZOOM）

主 催：小野薬品工業株式会社

講 演：「東海地区における造血幹細胞移植の現状」

演 者：岐阜県立多治見病院 副院長兼血液内科部長 小澤 幸泰先生

講 演：「RRMM の最新治療戦略

～Carfilzomib の役割を再考する」

演 者：獨協医科大学埼玉医療センター

糖尿病内分泌・血液内科 教授 田村 秀人先生

●岐阜県輸血療法セミナー

開催日時：2024年9月20日（金）19：00～20：00

開催形式：ZOOM 配信

主 催：中外製薬株式会社

講 演：「血友病 A 患者におけるヘムライブラ治療の最新情報と今後の展望」

演 者：奈良県立医科大学 小児科 教授 野上 恵嗣先生

●タバリス錠 web セミナー

開催日時：2024年10月16日（水）18：50～20：10

開催形式：ZOOM Webinar

主 催：キッセイ薬品株式会社

基調講演：「血小板減少における当院の検査について」

演 者：松波総合病院 輸血部中央検査室 課長 森本 剛史先生

特別講演：「特発性血小板減少性紫斑病（ITP）診療の現状と今後の展望」

演 者：大阪府赤十字血液センター

大阪大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科

招へい教授 柏木 浩和先生

●岐阜県造血障害 web セミナー

開催日時：2024年12月6日（水）18：00～19：00

開催形式：ZOOM Webinar

主 催：アッヴィ合同会社

一般講演：「輸血医療における病院薬剤師の現状

～知識向上を目指した研修会を開催～」

演 者：中部国際医療センター 薬剤部 主任 澤田 綾子先生

特別講演：「Patient Blood Management の観点から今後の輸血医療を考える

演 者：日本赤十字社 東京都赤十字血液センター 所長 牧野 茂義

【学会業績】

●第72回日本輸血・細胞治療学会（令和6年5月31日（金））

BMS イブニングセミナー座長 大垣市民病院 小杉 浩史先生

WG 8：標準ツールの開発

岐阜県立多治見病院・血液内科 小澤幸泰

今年度は新たに必要となった具体的な活動はなく、次年度以降の活動の検討を行った。

過去に作成した標準ツールは以下のとおりである。

- 1) 輸血製剤管理簿
- 2) 輸血用血液製剤説明資料
- 3) 血漿分画製剤説明資料
- 4) 輸血療法委員会事例集
- 5) 輸血 Q&A 集
- 6) 輸血後感染症検査のご案内

令和6年度専門部会活動総括

以下に、各 WG の活動内容を総括する。

WG1： 岐阜県調査と学会全国調査の突合解析を行った。

岐阜県では、令和3年度に血液製剤廃棄率が全体平均で初めて1%を下回ることができた。令和4年度は微増したものの1%を維持している。中規模病院は、令和3年度から引き続き2%を下回り、目標達成できている。対象施設数は少ないが、小規模病院は3%未満の目標が未達成である。

今年度はWG4岐阜県医師会の協力により、血液製剤使用量上位30医療機関に対する岐阜県調査と同一の調査アンケートを血液製剤使用実績のある全ての病院で実施できた。その結果、100-199床規模（全17施設）の施設での赤血球製剤廃棄率が3.17%と平均廃棄率を押し上げている実態が明らかとなった。中でも3施設が3%を超えており、1施設で突出して高い廃棄率の施設がみられ、全体を押し上げていることが判明した。詳細についてはWG1報告を参照されたい。

WG2： メーリングリストでの情報共有体制は維持。各施設輸血療法委員会オブザーバー参加活動を昨年度実績に続き、現地訪問を2施設で実現できたことは大きな成果であった。専門部会に2施設の輸血療法委員会から招聘参加を実現できた。

職種別ネットワークでは、薬剤師研修会のオンライン・現地のハイブリッド方式の研修会を実現し、ほぼ過去最大数の参加者数とすべての二次医療圏からの参加者を得て、継続実現できた。今年度も5つの二次医療圏すべての地域から薬剤師研修会の参加者を得た。臨床輸血看護師ネットワークでは、輸血看護業務調査アンケート実施し、ようやくパンデミックをはさんで2回目の輸血看護業務調査アンケートが臨床輸血看護師在籍施設の対象施設を拡大して実現した。今年度、主たる解析を実現できた。来年度には追加解析を加えたい。

WG3： 11/8にオンライン会議形式での研修会開催を行った。e-learning教材の開発に着手した。今後、旧来の集合型の現地視察研修に加え、オンライン研修およびオンラインでのe-learning研修を可能にし、研修手段が多様化させられるようになりつつあるが、令和6年度は当初計画の3つのテーマについて資材拡充を実現できた。今後、さらに加速させたい。

WG4： これまでも「在宅輸血」に関するアンケートを実施してきたが、一昨年度は、100床以下の輸血実施医療機関のみならず、はじめて、訪問看護ステーションに対するアンケート調査が合わせて実現した。在宅輸血実績のある医療機関は県内全体で10施設程度であり、このうち、積極的に対応する施設は3施設のみであ

った。一方、訪問看護ステーションの在宅輸血実施体制と対応に関する多くの課題が抽出された。

今年度は、岐阜県医師会を通じて、血液製剤使用実績のある全ての病院へ、岐阜県調査と同一の詳細なアンケート調査を実施した。WG1 解析とともに解析を行い、特に、厚労省適正化方策事業採択課題への中核的なデータ解析を実現した。

今後は、一旦、在宅輸血のテーマは県医師会主催の研修会が医師会側で可能となるまで、一区切りとし、あらためて小規模医療機関を中心に詳細な調査を目指したい。

WG5： 専門部会 NEWS を発行したが、作成時に予定した企画の多くが昨年度から協議し、web 会議システム利用を前提にして計画されたため、計画され、NEWS に掲載し配信した内容をほぼ実現できた。引き続き、各施設輸血療法委員会で、岐阜県合同輸血療法委員会活動からの提供情報を共有し、自施設での改善に必要な情報として活用いただきたい。

WG6： 認定技師数のモニタリングでは、病床数当たりの認定検査技師数で過去には最高で 9 位であったものが、全国平均の 23 位にまで低下してきている。新規受験がパンデミックのため停止している間に定年退職者等による自然減が加わったためと思われる。しかしながら、今年度受験で新規合格者を 2 名確保し、合計 21 名（病床あたりで全国 21 位）に微増した。引き続き、今後の世代交代への準備対応を急ぐ必要がある。また、中規模施設での認定技師確保が大きな課題である。検査技師会による研修会は web 方式で実施され、相談支援については、web 方式が可能となり、継続できている。

WG7： 血液センター主催の学術講演会については血液センターの事情により、継続が難しくなっており、企業主催の輸血医療に関する学術講演会を何とか確保し、情報配信できた。専門部会活動に関する 2025 年日本輸血・細胞治療学会での報告を 4 演題予定している。

WG8： 新規の標準ツール作成は必要なかった。

3 総 括

今年度は、あらたに輸血使用量上位30医療機関のみならず、血液製剤使用実績のある全ての病院に対して、岐阜県調査アンケートと同一のアンケート調査をWG1およびWG4（岐阜県医師会）の共同で実現した。

これまでの過去の厚労省血液製剤使用適正化方策事業採択課題の延長上の調査解析として画期となる調査を実施できたことになる。

各WG課題の調査の期間中、COVID-19パンデミックからの社会状況の変化があり、中小規模病院の血液製剤廃棄率は多くで改善が進んでおり、過去十数年の中でも、突出して改善が進んだ実態があった。

したがって、二つの期間で単純な比較検討はかえって困難な状況となったが、詳細な全病院対象調査が実現したことで、100-199床の施設での平均廃棄率が高いこと、その中でも10数パーセントの3施設が自力改善できていないことが主因であることがみえてきた。99床以下の小規模医療機関では廃棄率はほぼゼロであることも明らかとなった。

一方、200床以上の中規模医療機関は、若干、全国平均より廃棄率が高い傾向にあったものが、今回調査では、概ね平均3%未満に改善しており、2~3施設のみが全体平均を押し上げていることも判明した。最も支援強化が必要な中規模医療機関の改善がこの3年のうちに進んだことから、県合同輸血療法委員会による適正化推進活動が大きな役割を果たしたことが確認できた。

今後期待される施策として、WG2の薬剤師の教育啓発活動、臨床輸血看護師支援による各施設での適正化推進活動、I&A受審の推進、また、WG3による施設研修の場の提供、e-Learning教育資材の拡充、WG6による認定技師の世代交代と絶対数の確保支援、相談事業強化などが、各施設での適正化推進活動への意識の向上と同時に各施設委員会での各職種による適正化推進活動の質と量の向上がさらに期待できるものと確信している。

4 今後への提言

以下のポイントを踏まえて、オンラインコミュニケーションツールを併用活用して適正化推進を支援する。

- (1) 一部の廃棄率目標未達成が持続している一部の中小規模病院への支援を、引き続き強化・拡充する必要がある。
- (2) 専門性資格保有者の活用と拡充が重要である。(強化)
- (3) 開発・教育・研修・監査体制の構築により自律的に適正化推進が可能となるまで相談支援を強化する。
- (4) 引き続き、モデル的施設としてのI&A認証施設を確保する。(今年度は1施設の新たな認定が実現)。
- (5) 引き続き、各種研修会、e-learning研修のツールの拡充をはかる。(強化)

【謝 辞】

最後に、今年度もご協力いただいた輸血医療機関の関係各位、岐阜県合同輸血療法委員会委員各位、専門部会会員の皆様、また、岐阜県医師会、岐阜県薬剤師会、岐阜県臨床検査技師会の各団体、委員会及び専門部会事務局として長年にわたって支えて下さっている岐阜県薬務水道課委員会事務局、岐阜県赤十字血液センター専門部会事務局の関係者の皆様に深謝申し上げます。

参考資料

(別紙1)

令和6年度 血液製剤使用適正化方策調査研究事業 研究計画書

令和6年8月13日

一般社団法人 日本輸血・細胞治療学会
理事長 岡崎 仁 殿

所在地：〒500-8570
岐阜県岐阜市藪田南2丁目1番1号
(岐阜県健康福祉部薬務水道課内)
岐阜県合同輸血療法委員会
代表者氏名：小杉 浩史

令和6年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業を実施したいので次のとおり研究計画書を提出する。

1. **研究課題名**：中小規模病院における血液製剤の使用実態の把握と解析を活用した適正化方策事業の展開
2. **経理事務担当者の氏名及び連絡先**（所属機関名、Tel、Fax、E-mail）：
氏 名：和田 美奈
医療機関名：岐阜県赤十字血液センター
Tel：058-272-6919 Fax：058-272-6923
E-mail：[REDACTED]

3. 合同輸血療法委員会組織

①研究者名	②分担する研究項目	③所属機関及び現在の専門	④所属機関における職名
小杉 浩史	岐阜県内医療機関における血液製剤の適正使用の推進 ・研究の総括 大垣市民病院における血液製剤の適正使用の推進	大垣市民病院 血液内科	血液内科部長
西野 好則	岐阜県内医療機関における血液製剤の適正使用の推進 ・小規模医療機関における管理体制等のニーズ把握	一般社団法人岐阜県医師会 (岐阜県内医療機関) 泌尿器科	理事
鈴木 昭夫	岐阜県内医療機関における血液製剤の適正使用の推進	一般社団法人岐阜県薬剤師会 薬学	副会長

森本 剛史	岐阜県内医療機関における血液製剤の適正使用の推進 ・県内輸血検査技師育成方法の確立	一般社団法人岐阜県臨床検査技師会 輸血学	輸血細胞治療部門長
清水 雅仁	岐阜大学医学部附属病院における血液製剤の適正使用の推進	岐阜大学医学部附属病院（同病院輸血部） 岐阜大学大学院医学系研究科 消化器病態学・血液病態学・臨床腫瘍学分野	教授 輸血部長
北川 順一	岐阜市民病院における血液製剤の適正使用の推進	岐阜市民病院（同病院輸血部） 血液内科	輸血部長
小澤 幸泰	岐阜県立多治見病院における血液製剤の適正使用の推進	地方独立行政法人岐阜県立多治見病院（同病院血液内科） 血液内科	血液内科部長
横井 達夫	岐阜県総合医療センターにおける血液製剤の適正使用の推進	地方独立行政法人岐阜県総合医療センター（同病院整形外科） 整形外科	副院長・輸血部長
鶴見 寿	松波総合病院における血液製剤の適正使用の推進	社会医療法人蘇西厚生会松波総合病院（同病院血液内科） 血液病態学	病院長代理
福野 賢二	高山赤十字病院における血液製剤の適正使用の推進	高山赤十字病院（同病院血液内科） 血液内科	血液内科部長
後藤 英子	中濃厚生病院における血液製剤の適正使用の推進	岐阜県厚生農業協同組合連合会中濃厚生病院（同病院血液内科） 血液内科	血液内科部長
高橋 健	岐阜県内医療機関の血液製剤の適正使用の推進 ・研究の総括の補助	岐阜県赤十字血液センター 輸血学	所長

4. 研究の概要（i 今年度予定されている適正使用研究計画の有効性と実現性、研究成果の活用可能性、近隣都道府県・ブロックへの取組の啓発、ii 現状の事業体制についての問題点の現状分析と策定された改善案の妥当性、改善の数値目標の設定、設定された数値目標における改善の大きさ、その実現可能性などを記載すること）

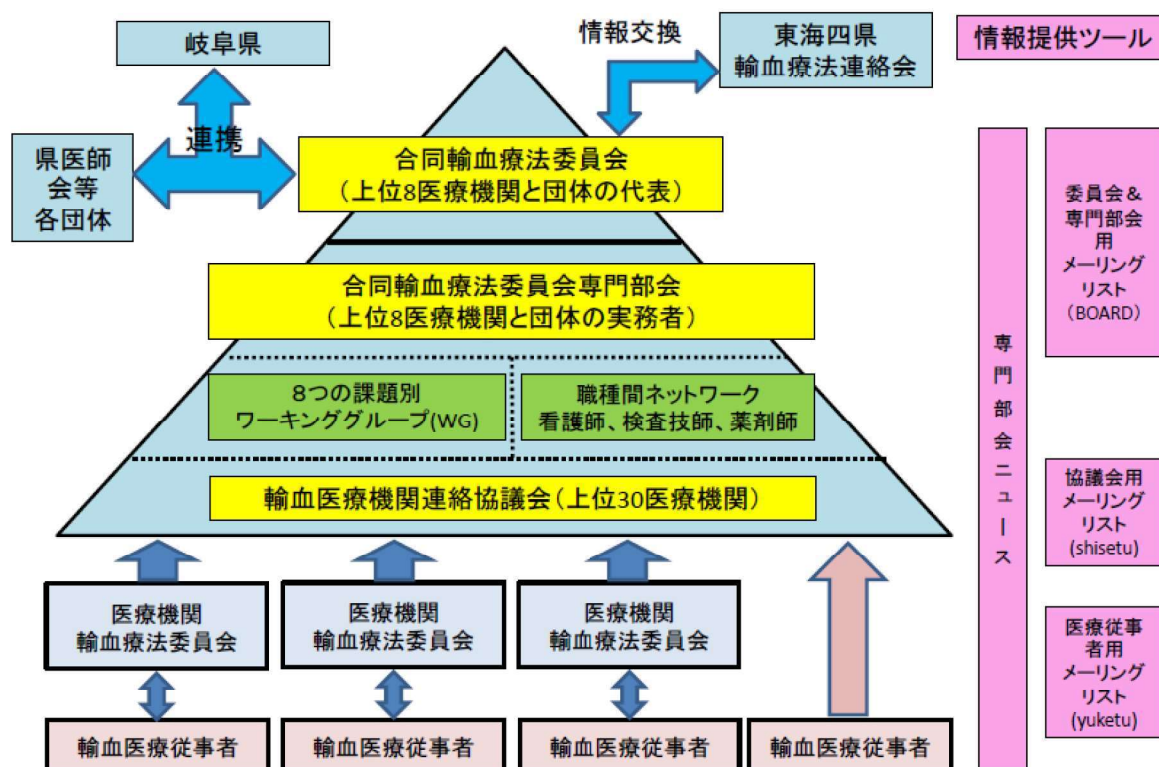
（1）実施体制

岐阜県合同輸血療法委員会は、血液使用量が上位の医療機関、岐阜県医師会、岐阜県薬剤師会、岐阜県臨床検査技師会から推薦を受けた者及び岐阜県赤十字血液センター所長等で構成され、血液製剤の使用適正化に向けた活動を行っている。

○委員会の組織体制

委員会	委員長	小杉 浩史 大垣市民病院 血液内科部長
	委員	- 血液製剤使用量上位 8 医療機関の代表（輸血療法委員会から推薦された者） - 県医師会、県薬剤師会及び県臨床検査技師会から推薦された者 - 岐阜県赤十字血液センター所長 - その他 計 12 名（委員長を含む）
	事務局	岐阜県健康福祉部薬務水道課
専門部会	部会長	小杉 浩史 大垣市民病院 血液内科部長
	事務局	岐阜県赤十字血液センター

岐阜県合同輸血療法委員会の推進体制



(2) 研究実施スケジュール

研究実施内容	実 施 日 程 (月)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
・血液製剤適正使用推進												
・血液製剤使用状況調査												
・参考資料等の収集												
・結果の解析												
・総括・報告書作成												

分担者 氏名 西野 好則

研究実施内容	実 施 日 程 (月)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
・血液製剤適正使用推進												
・小規模医療機関における管理体制等の二一ズ の把握												
・報告書作成												

分担者 氏名 鈴木 昭夫、清水 雅仁、北川 順一、小澤 幸泰、横井 達夫、鶴見 寿、福野
賢二、後藤 英子

研究実施内容	実 施 日 程 (月)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
・血液製剤適正使用推進												

分担者 氏名 森本 剛史

研究実施内容	実 施 日 程 (月)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
・血液製剤適正使用推進												
・輸血検査技師育成方法 の確立												
・報告書作成												

分担者 氏名 高橋 健

研究実施内容	実 施 日 程 (月)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
・血液製剤適正使用推進												
・総括補助												

（３）研究目的

岐阜県合同輸血療法委員会及び専門部会では、「血液製剤の適正使用に関する指標」として、「血液製剤の廃棄率」と「病院機能分類別血液製剤使用量90%超使用施設数」を設定し、県内の血液製剤使用量上位30医療機関に対して血液製剤の適正使用の推進を図っている。

これまでに、多職種チームによる医療連携ネットワークを構築し、各施設輸血療法委員会との情報共有や視察研修等の専門部会活動を継続してきた結果、県内の「血液製剤の廃棄率」については平成25年の2.47%から着実に減少し、令和3年度は0.97%、令和4年度は1.11%まで低減している。

令和4年度の血液製剤の廃棄率を病院規模別に比較すると、大規模病院は0.4%、中規模病院は1.26%まで低減してきたところであるが、小規模病院は5.54%と目標を達しておらず、特に小規模病院における廃棄率低減に向けて更なる取組み・支援強化が課題となっている。

令和4年度に本調査研究事業で実施した中小規模病院解析では、これまでに蓄積されたデータを活用して、血液製剤の廃棄率が低い中小規模病院について解析を行い、廃棄率の低い施設が有する影響因子の抽出、廃棄率改善群・非改善群の傾向について検討した。この結果、特に100-199床および200-299床の病床規模群で、輸血使用量と廃棄量のインパクトがあることが判明した。そこで、令和5年度は、さらに詳細な要因解析を行うため、従来のアンケート調査に新たな調査項目を追加するとともに、学会全国調査データと県内施設データの突合解析を行った。

一方で、本研究においてこれまでに実施してきた血液製剤使用の適正化の推進に係る調査対象（毎年100%の回収率で行っている血液製剤使用量上位30医療機関）において、調査対象となる小規模医療機関の数が少なく、令和4年度報告で明らかにした調査研究の深堀りを行うために、小規模医療機関を対象とする調査が必要である。そこで、令和6年度は、直接の調査を実施する調査対象を拡充し、従来の調査対象（血液製剤使用量上位30医療機関）に、血液製剤使用量上位30医療機関以外で血液製剤使用実績のある病院（約40施設）を加えた約70医療機関に調査を実施することで、小規模医療機関における廃棄率の低い施設が有する影響因子等のさらに詳細な要因解析を行う。

また、従来から取り組んでいる専門部会活動と連携し、参考となる中小規模病院への視察研修の機会を検討する等、特に廃棄率が高い中小規模病院に対する支援強化に繋げていく。

（４）本研究の有効性と実現性

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行により岐阜県合同輸血療法委員会及び専門部会活動に制約が課せられたところではあるが、Web会議形式を用いた輸血医療施設の視察研修及び職種別研修会をはじめ、各施設輸血療法委員会との情報共有といった活動方法を構築したことで、これまでに対面形式では参加が困難であった遠隔地の病院との交流が可能となり、県内輸血医療機関のネットワークを強化することができた。今年度も対面式を基本とした輸血医療施設の視察等を実施予定であるが、状況に応じてWeb会議形式を活用し、本研究計画を実施することが可能である。

（５）研究成果の活用可能性

本研究をとおして、専門部会内での知識を深めると共に、県内中小規模病院、小規模医療機関（県医師会）、認定輸血検査技師（県臨床検査技師会）、薬剤師（県薬剤師会）及び臨床輸血看護師の多職種間との連携を一層強化することで、中小規模病院の血液製剤の管理方法を見直し、廃棄率の低減につなげる。

（６）研究計画・方法

小規模病院の血液製剤使用状況等の把握

当県の状況は、上位30医療機関での使用量が、血液製剤供給量（赤血球製剤）換算で、占有率約90%を占める。昨年度に引き続き、血液製剤使用量上位30医療機関を対象にアンケート調査を実施し、廃棄率の低い小規模病院を中心に血液製剤の廃棄率改善の取組状況などについて詳細な解析を行うことにより指標数値の改善対策の検討に活用する。今年度は、さらなる廃棄率改善施設の要因解析を行うため、直接の調査を実施する調査対象を拡充し、従来の調査対象（血液製剤使用量上位30医療機関）に、血液製剤使用量上位30医療機関以外で血液製剤使用実績のある病院（約40施設）を加えた約70医療機関に調査を実施する。

また、日本輸血・細胞治療学会調査や岐阜県医師会アンケート調査を活用し、上記の岐阜県調査と合わせて、血液製剤の使用状況の実態を把握して継続的な対策を講ずる。

また、下記に示すその他の活動として、中小規模病院への支援アプローチを強化しているプロジェクトが多数ある。改善が停滞している県内の中小規模病院に対する支援強化を図る他、モデル病院の視察研修もweb研修やe-learning資材の活用拡大により、中小規模病院からの参加を拡充させてゆく。認定資格保有者の獲得が血液製剤使用適正推進に大きな意味を持つことが過去の調査で明らかになっているため、中小規模病院での各職種の認定資格保有者の拡大に向け、次世代を中心とした支援強化を行う。

日本輸血・細胞治療学会I&A認定施設も中規模病院に広がりを見せつつあり、従来からの岐阜県合同輸血療法委員会・専門部会活動の重点テーマである中小規模病院への支援強化にも合致するテーマであり、引き続き取り組んでいく。

（その他の活動）

廃棄率低下に対する相乗効果を期待して、従来から取り組んでいる以下の専門部会活動を並行して実施する。

○Web会議システムを利用した専門部会におけるオブザーバー支援

輸血医療適正化推進スコア及び血液製剤の廃棄率について改善が必要な中小規模病院を3施設程度選定し、Web形式での専門部会への参加を促す。各病院の課題について合同輸血療法委員会・専門部会で助言支援、相談対応を行う。

○各施設輸血療法委員会へのオブザーバー参加

輸血医療適正化推進スコア及び血液製剤の廃棄率について改善が必要な中小規模病院を3施設程度選定し、各施設の輸血療法委員会に専門部会の多職種チームを派遣し、助言支援を行う。各施設の状況に応じて、Web会議形式又は対面形式を選定の他、視察等の機会も検討する。

選定施設の実情に合わせた具体的な助言支援が行えることや、場合によっては施設輸血療法委員会に病院長の参加のあるケースがある等、病院としての改善取組みが図られることも多いことから、高い効果が期待できる。

○Web会議システムを利用した施設研修等の実施

輸血医療適正化推進スコアで評価が高い病院をモデル病院として選定し視察研修の機会を設定する。対面形式での視察の再開を目指すこととするが、状況に応じてWeb会議システムを利用する。

また、昨年度作成したe-learning教育資材を活用する。今年度においては、コンテンツ企画内容の立案を実施する。

Web会議システムを活用することで、COVID-19の流行下での開催を可能とすると共に、今まで遠方のために参加が困難であった中小規模病院からの参加が実現できたことから、視察に代わる効果的な研修手法として検討する。

○職種間ネットワークの活用

Web会議システムを活用した研修会、会合を行い、職種間ネットワークを強化するとと

もに、輸血医療の課題や問題点への解決を行う。

〔臨床検査技師のネットワーク〕

平成30年度に構築した「輸血検査技師ネットワーク相談支援体制」を活用し、I&A視察経験者及び窓口の認定技師による相談や助言などの支援を行い、輸血医療の適正化推進を図る。

〔臨床輸血看護師のネットワーク〕

平成28年に実施した看護師の輸血業務への関与の現状及び輸血業務に関する認知度に関するアンケート結果の更新及び看護師研修体制の見直しを行うため、臨床輸血看護師に対する実態調査を実施するほか、臨床輸血看護師会合をweb会議形式で実施する。

〔薬剤師のネットワーク〕

県薬剤師会及び県病院薬剤師会の協力のもと薬剤師を対象とした輸血研修会を対面形式（同時にWeb配信）で開催し、輸血医療に関わる薬剤師の連携強化を図ると共に、遠隔地勤務の薬剤師への参加機会を増やす。

○適正な輸血療法の推進に向けた小規模医療機関（医師会）における継続的な取組み

岐阜県医師会と連携し、過去に実施した小規模医療機関などを対象とした血液製剤の使用に関する実態調査について詳細な分析を行い、小規模医療機関の血液製剤の使用に関する取組を把握する。

また、小規模医療機関に対する研修会等を実施し、廃棄率の低い医療機関の取組を共有するなど適正な輸血療法の推進を図る。

（その他）

輸血医療機関や輸血医療従事者を対象とした3種のメーリングリストを活用し、普及啓発及び情報交換の場を形成・維持する。

○専門部会員間のWeb会議環境の把握

○定期刊行物（専門部会ニュース）の発行

○学術企画の案内

○合同輸血療法委員会の開催

○輸血医療機関連絡協議会の開催

5. 代表者又は応募する地域で血液製剤適正使用に関連して取り組んできた状況

1 適正化に向けた初期の取組（昭和61年度～平成17年度）

岐阜県では、昭和61年度から、県内5地域で医師を対象とした血液製剤の適正使用のための説明会を開催し、県内の血液製剤使用量や需給状況に関する情報提供に努めてきた。また、平成8年度からは、岐阜県は「岐阜県血液製剤使用適正化懇談会」（以下「懇談会」）を開催し、血液製剤使用量上位10位までの医療機関、医療関係団体、岐阜県赤十字血液センター及び行政機関が参加して、血液製剤使用適正化に向けた意見交換を行ってきた。

2 県合同輸血療法委員会の設置に向けた取組等（平成18年度～23年度）

平成18年度の懇談会において、合同輸血療法委員会設置の是非等が議論されたが、懇談会全体としての意見統一は図られず継続審議となっていた。平成23年度になって、血液製剤を多く使用する代表的な県内8医療機関、岐阜県赤十字血液センター及び岐阜県による「岐阜県合同輸血療法委員会準備委員会」において、委員会の設置について合意し、同年度の会合において懇談会を委員会に移行することが決定された。また、平成23年度から、岐阜県赤十字血液センターが「岐阜県輸血療法講演会」を開催し、輸血用血液製剤の適正使用に関する情報提供及び意見交換に努めている。

3 県合同輸血療法委員会の設置と活動実績（平成24年度～令和5年度）

平成24年5月1日に「岐阜県合同輸血療法委員会設置要綱」及び「岐阜県合同輸血療法委員会部会設置要領」を定め、平成24年5月30日に委員13名により「岐阜県合同輸血療法委員会」が発足した。

（1）県合同輸血療法委員会の開催

平成24年度以降、毎年度2月に、委員会を開催し、当年度の専門部会の活動状況、使用量上位30位医療機関を対象としたアンケート調査結果及び県内における献血推進状況と血液製剤供給状況の報告などを受けるとともに、翌年度の事業方針（案）について協議している。

（2）岐阜県輸血療法講演会の開催

輸血医療の質の向上を目的として、県内の医療機関で輸血医療に従事している職員を対象に輸血療法講演会を開催した。

年 月 日	講 師	演 題
平成 24 年 9 月 7 日	新潟大学医学部 布施一郎教授	新潟県合同輸血療法委員会の活動

平成 25 年 10 月 25 日	静岡市立清水病院顧問 長田広司先生	合同輸血療法委員会のさらなる展開 —I&A をいかに活用するか—
平成 26 年 9 月 4 日	福島県立医科大学 大戸斉副学長	輸血に関与する多医療職種による合同 輸血療法委員会の運営
平成 27 年 1 月 24 日	伊勢赤十字病院第 4 内科 玉木茂久部長	三重県合同輸血療法委員会の現状につ いて
平成 27 年 9 月 3 日	慶應義塾大学医学部 輸血・細胞療法センター 半田誠教授	血小板輸血の意義と課題
平成 28 年 9 月 8 日	北海道ブロック血液センター 紀野修一副所長	わが国における PBM の取り組み
平成 29 年 9 月 7 日	伊勢赤十字病院 森尾志保先生	I&A 視察員の資格を取得して
平成 30 年 9 月 6 日	日本赤十字社東海北陸ブロッ ク血液センター 旗持 俊洋先生	東海北陸ブロック血液センターにおけ る血液事業の取り組みについて
令和元年 9 月 5 日	富山大学附属病院 検査・輸血細胞治療部 副部長 安村 敏先生	科学的根拠に基づいたアルブミン治療 について

(3) 専門部会の活動

専門部会では、設定した課題ごとにワーキンググループのリーダーとグループメンバーを決定して活動するとともに、定期的に部会を開催し、血液製剤の使用適正化に向けた実質的な活動の推進を担った。

年 度	ワーキンググループ数	部会開催回数	視察研修病院数
平成 24	7	8回	1 病院
平成 25	8	6回	2 病院
平成 26	8	6回	4 病院
平成 27	8	5回	6 病院
平成 28	8	5回	5 施設
平成 29	8	5回	5 施設
平成 30	8	5回	6 施設
令和 元	8	5回	6 施設
令和 2	8	4回	COVID-19 パンデミ ックのため中止。
令和 3	8	5回	3 施設 (web 研修)

令和 4	8	5回	3施設
令和 5	8	5回	3施設

なお、令和5年度における8つの活動実績の概要は次のとおりである。

WG	活動項目	活動内容
1	実態調査	・岐阜県アンケート調査の解析 ・学会アンケートと岐阜県アンケートの突合解析 ・I&Aセルフチェックアンケートの継続
2	普及啓発及び情報交換の場の育成	・輸血医療機関連絡協議会の開催 ・看護師ネットワーク、薬剤師ネットワークの形成推進 ・I & A 認証取得の推進
3	モデル的な施設事例の収集及び紹介	・病院視察研修の実施 ・web 研修及び交流プログラムの実施
4	小規模医療機関のニーズ把握	・岐阜県医師会と連携したアンケート調査について、次年度以降の実施調整
5	定期刊行物（普及啓発メディアの確立）	・専門部会ニュースの発行（年2回）
6	県内輸血検査技師育成方法論の確立	・輸血検査実技研修会の開催
7	学術企画	・岐阜県輸血療法講演会への企画参加
8	標準ツールの開発等	—
9	その他	・医療機関の輸血療法委員会へのオブザーバー参加・助言支援 ・I&A受審施設の拡大およびI&A受審支援対策

岐阜県合同輸血療法委員会設置要綱

(目 的)

第1条 本会は、県内の医療機関における適正かつ安全な輸血療法の向上を目指すため、血液製剤の使用適正化を推進するものとする。

(名 称)

第2条 本会は、「岐阜県合同輸血療法委員会」と称する。

(構 成)

第3条 本会は、次に掲げる者により構成する。

- (1) 県内における血液製剤使用量上位8位までの医療機関の輸血療法委員会から推薦された者
(輸血療法委員会委員長、輸血責任医師等)
- (2) 岐阜県医師会、岐阜県薬剤師会及び岐阜県臨床検査技師会から推薦された者
- (3) 岐阜県赤十字血液センター所長
- (4) その他必要と認められる者

(役 員)

第4条 本会に次の役員を置く。

- (1) 委員長 1名
- (2) 副委員長 1名
- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選とする。
- 3 委員長は、会を代表し、会議の議長となる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(任 期)

第5条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

ただし、補欠により選任された者の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 役員の任期は、前項の規定を準用する。

(会 議)

第6条 本会は、県が招集し開催する。

(事 業)

第7条 本会は第1条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 血液製剤の使用適正化を推進する上での課題の整理に関すること。
- (2) 各医療機関における血液製剤の使用適正化の推進に関すること。
- (3) その他目的を達成するために必要な事業。

(部 会)

第8条 本会の目的に資するため、本会に部会を置くことができる。

(事務局)

第9条 本会の事務を処理するため、岐阜県健康福祉部薬務水道課に事務局を置く。

(その他)

第10条 本要綱に定めるもののほか、必要な事項は本会において協議し、別に定める。

附 則

この要綱は、平成24年5月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

岐阜県合同輸血療法委員会 部会設置要領

(目 的)

第1条 本部会は岐阜県合同輸血療法委員会の所掌事項に係る専門的事項を円滑に推進するために設置する。

(名 称)

第2条 本部会は「専門部会」と称する。

(構 成)

第3条 本部会は部会長、部会員をもって組織し、部会長は、部会員のうちから選出する。

2 部会員は、次に掲げる者により構成する。

- (1) 合同輸血療法委員会委員のうち、部会員となることを希望する者
- (2) 合同輸血療法委員会委員所属機関の輸血責任医師、輸血療法委員会の委員長、臨床検査技師、薬剤師、看護師等であって、合同輸血療法委員会委員の推薦を受けた者
- (3) 岐阜県赤十字血液センター職員
- (4) その他必要と認められる者

(会 議)

第4条 本部会は、県が招集し、部会長が議長となる。

2 合同輸血療法委員会委員は、必要に応じて部会に出席し、意見を述べることができる。

(事 業)

第5条 本部会は次の内容を検討し、合同輸血療法委員会へ報告する。

- (1) 医療機関ごとの血液製剤の使用量・状況の比較検討及び使用指針に基づいた評価
- (2) 各種指針等を用いた適正使用に関する勉強会
- (3) 各医療機関における課題の整理・検討
- (4) 輸血医療に関する相互査察
- (5) 県内及び他県の使用状況と全国的な傾向の把握
- (6) その他

(事務局)

第6条 本部会の事務を処理するため、事務局を岐阜県赤十字血液センター内に置く。

附 則

この要領は、平成24年5月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成25年4月1日から施行する。

岐阜県輸血医療機関連絡協議会設置要領

(目 的)

第1条 本協議会は、県内の医療機関における適正かつ安全な輸血療法の向上を目指すため、各医療機関との情報共有や意見交換を行うことを目的に、岐阜県合同輸血療法委員会専門部会のもとに設置する。

(名 称)

第2条 本会は「岐阜県輸血医療機関連絡協議会」と称する。

(構 成)

第3条 協議会員は、専門部会員のうち、専門部会長が指名する会員、県内血液製剤使用医療機関の中で、専門部会で規定する一定規模の使用量の医療機関の輸血療法委員会委員長、輸血責任医師、臨床検査技師等、および必要に応じて専門部会長が招聘する外部の識者等とする。

(会 議)

第4条 本協議会は岐阜県合同輸血療法委員会専門部会長が招集し、部会長が議長となる。

2 専門部会長は必要があると認めるときは、学識経験を有する者等関係者に対して会議への出席を求めることができる。

(事業)

第5条 本協議会は、岐阜県合同輸血療法委員会及び専門部会が行う事業について情報を共有するとともに、意見交換をし、専門部会の立案に有用な情報を提供する。

(事務局)

第6条 本会の事務を処理するため、事務局を岐阜県赤十字血液センター内に置く。

なお、会員間の連絡・意見交換のため、専門部会が別途設置するメーリングリスト等を活用する。

附則

この要領は、平成 24 年 12 月 1 日から施行する。

岐阜県合同輸血療法委員会委員

(任期：令和6年5月30日～令和8年5月29日まで)

氏 名	所 属	備考（役職）
西野 好則	一般社団法人 岐阜県医師会	理 事
鈴木 昭夫	一般社団法人 岐阜県薬剤師会	副会長
森本 剛史	一般社団法人 岐阜県臨床検査技師会	輸血部門長
清水 雅仁	国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学医学部附属病院	輸血部長
小杉 浩史	大垣市民病院	血液内科部長
北川 順一	岐阜市民病院	輸血部長
小澤 幸泰	地方独立行政法人岐阜県立多治見病院	副院長兼血液内科部長
横井 達夫	地方独立行政法人岐阜県総合医療センター	副院長兼輸血部長
福野 賢二	日本赤十字社高山赤十字病院	血液内科部長兼輸血部長
鶴見 寿	社会医療法人蘇西厚生会松波総合病院	病院長代理
後藤 英子	岐阜県厚生農業協同組合連合会 中濃厚生病院	血液内科部長
高橋 健	岐阜県赤十字血液センター	所長

令和6年度 岐阜県合同輸血療法委員会報告書

中小規模病院における血液製剤の使用実態の把握と解析を活用した適正化方策事業の
展開

編集・発行 岐阜県合同輸血療法委員会

事務局 岐阜県健康福祉部薬務水道課
〒500-8570 岐阜市藪田南 2-1-1
TEL 058-272-8285 FAX 058-271-5731

岐阜県赤十字血液センター
〒500-8269 岐阜市茜部中島 2-10
TEL 058-272-6911 FAX 058-272-6923

発行日 令和7年3月

印刷 株式会社岐阜文芸社
